

北九州市立自然史・歴史博物館
(北九州市立いのちのたび博物館)
年報
平成30年度



特別展「食のたび」会場風景

ごあいさつ

北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）は平成14（2002）年11月3日に北九州市立歴史博物館、北九州市立自然史博物館、北九州市立考古博物館が一つの施設となって開館しました。平成30年度は484,016人のお客様をお迎えすることができました。当館の活動に多くの方々のご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

次の節目となる開館20周年に向けて、博物館の使命である標本資料の収集・整理保管・調査研究・展示・教育普及活動はもとより、より多くの皆様が楽しく学んでいただける博物館となるよう、職員一同これまで以上に研鑽を積み、職務に取り組んでいきたいと思いをします。

ここに平成30年度の年報を刊行いたします。多くの方々に当館の様々な活動を知っていただき、これまで以上に地域に根ざしながら、情報を世界に発信できる博物館となるよう、積極的なご意見とさらなるご協力を賜りますようお願いいたします。

令和元年8月

北九州市立自然史・歴史博物館
館長 上田 恭一郎

北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

<理 念>

自然と人間の関わりを考える共生博物館

- 1 博物館の展示に於いて示していく
- 2 教育・普及事業に於いて啓発を行う
- 3 資料収集、保存及び研究を進めていく

<方向性>

知的アクセス権を保障する博物館…知的好奇心への対応

- 1 ミュージアム・ネット化構想を進める
- 2 常に開館している博物館「24時間ミュージアム」を推進する
- 3 知的な疑問や関心に責任を持って応える

セカンドスクールとしての博物館…将来への知的投資

- 1 学校等に対して誘致事業を推進する
- 2 学校教育の支援事業を強化、拡大する
- 3 家庭教育の支援事業を充実する

研究の成果を教育・普及に生かす博物館…社会への知的還元

- 1 知識と経験を生かし、質の高い展示と教育・普及事業を行う
- 2 知の集積施設として外部の委員・講師や他組織の指導・助言を行う
- 3 地域の特性を活かした研究を行い、広く情報を発信する

目次

ごあいさつ

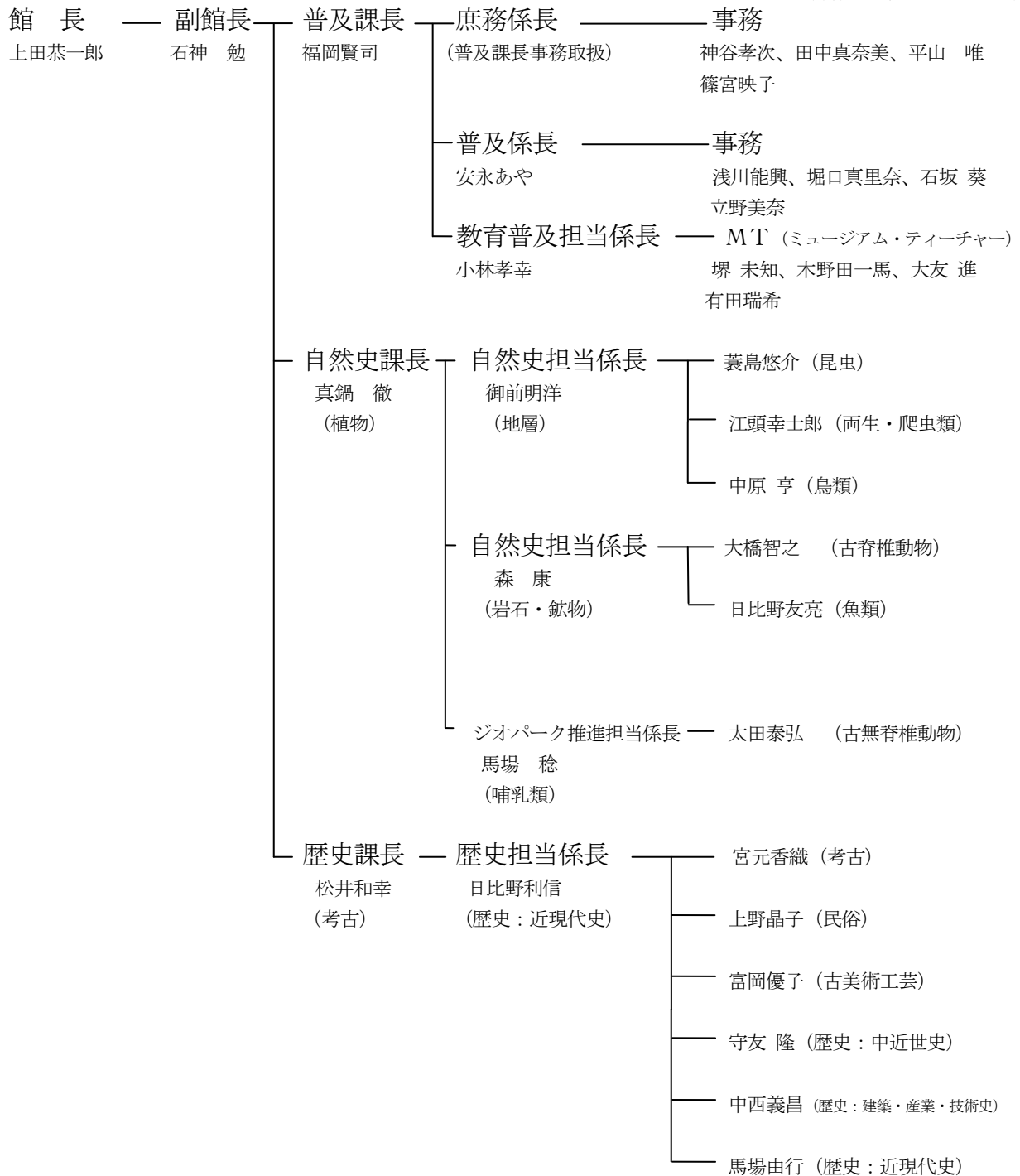
北九州市立いのちのたび博物館「理念と方向性」

	頁
1. 組織・運営体制.....	1
2. 博物館協議会.....	2
3. 平成30年度予算.....	3
4. 施設概要.....	4
5. 沿革.....	5
6. 入館者の状況.....	9
7. 視察受け入れ状況.....	10
8. 広報・報道実績.....	11
9. 特別展.....	12
10. 企画展など.....	17
11. その他の事業.....	23
12. 教育普及活動.....	27
13. 博物館ボランティア（シーダー）の活動.....	34
14. 自然史友の会の活動.....	36
15. 歴史友の会の活動.....	37
16. 資料の収集保存状況.....	38
17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）.....	40
18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	40
19. 画像等資料の貸出状況（自然史・歴史）.....	41
20. 学芸員研究業績（普及課・自然史課・歴史課）.....	43
21. 博物館刊行物.....	49

1. 組織・運営体制

(1) 平成 30 年度組織

(平成 31 年 3 月末日時点)



(2) 名誉館員

藤丸詔八郎 (2005. 4. 1)	戸来義臣 (2007. 4. 1)	税田昭徳 (2007. 4. 1)
藤井厚志 (2008. 4. 1)	岡崎美彦 (2010. 4. 1)	永尾正剛 (2011. 4. 1)
有川宜博 (2012. 3. 1)	上田恭一郎 (2013. 4. 1)	伊藤明夫 (2015. 4. 1)
山根明弘 (2016. 4. 1)	山家桂一 (2018. 4. 1)	藪本美孝 (2018. 4. 1)
下村通誉 (2018. 4. 1)	武石全慈 (2018. 4. 1)	

※ 括弧内は、就任日

2. 博物館協議会

(1) 博物館協議会委員（任期 平成29年9月1日～令和元年8月31日）

会長	伊澤雅子	琉球大学理学部海洋自然科学科教授
副会長	木村洋子	一級建築士、東田まちづくり協議会メンバー
	井上龍子	八幡駅前開発株式会社代表取締役社長
	岩松文代	北九州市立大学文学部教授
	緒方 泉	九州産業大学美術館教授
	近藤勝彦	北九州市立黒畑小学校校長
	染川香澄	ハンズ・オン プランニング代表
	富田幸光	国立科学博物館名誉研究員
	丸山誠吾	北九州市立高見中学校校長
	三島美佐子	九州大学総合研究博物館准教授

(2) 開催日時

平成30年9月13日（木） 10:00～14:00

(3) 内容

1) 平成29年度事業実績（博物館年報）について

- ア 概要
- イ 特別展開催実績
 - 「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(H29. 10. 7～H29. 12. 3)
 - 「アクア・キングダム-スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち-」(H29. 12. 23～H30. 2. 25)
 - 「Bones～骨、ほね、ホネ～」(H30. 3. 17～H30. 5. 13)
- ウ いのちのたび博物館開館15周年記念イベント
- エ 東アジア友好博物館交流事業
- オ ジオパーク活動推進事業
- カ 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

2) 平成30年度事業計画について

- ア 概要
- イ 特別展開催計画
 - 「へんてこモンスター」
 - 「食のたび-箸と和食の文化史-」
 - 「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命遺産」
 - 「獣は毛もの」
- ウ 東アジア友好博物館交流事業
- エ ジオパーク活動推進事業
- オ 東田ミュージアムパーク事業

3) 質疑応答

3. 平成 30 年度予算

歳 入 (単位：千円)		歳 出 (単位：千円)	
博物館使用料 (常設展入館料、駐車場料金など)	132,391	企画展・特別展開催経費	49,922
社会教育施設目的外使用料 (ミュージアムショップ使用料など)	1,806	資料整備・調査研究経費	11,586
企画費雑入 (特別展観覧料、刊行物販売など)	42,333	教育普及経費	2,795
		ジオパーク活動推進経費	1,552
		博物館維持管理経費等	264,765
計	176,530	計	330,620

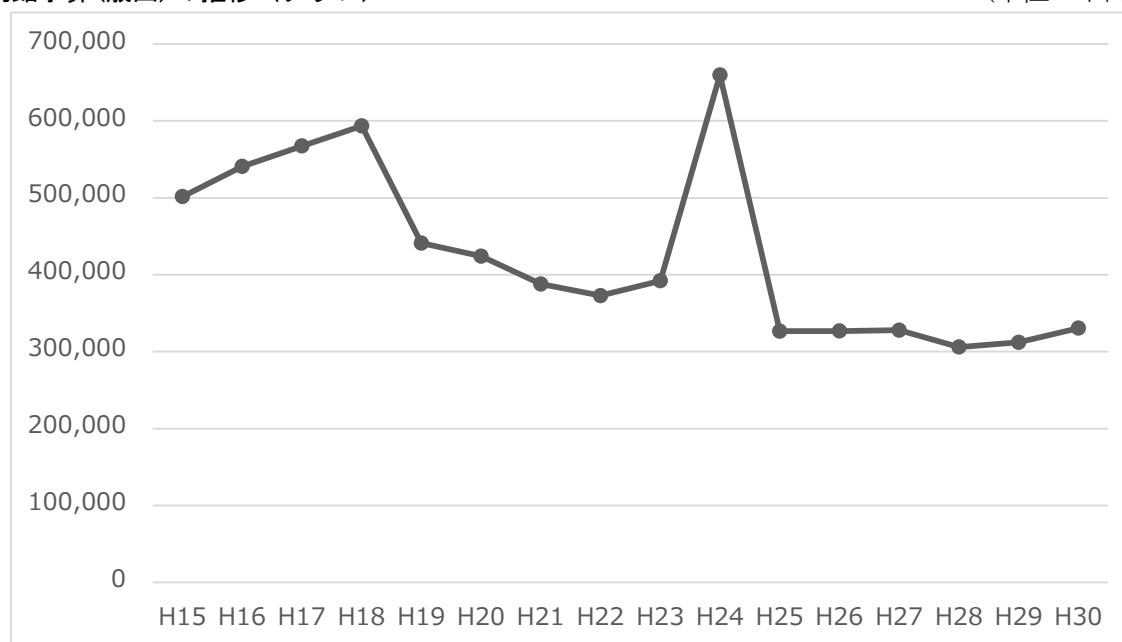
博物館予算(歳出)の推移

(単位：千円)

年 度	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
予算額	2,476,072	501,604	540,788	567,441	593,467	441,058	424,070	387,868
備 考	H14.11.3開館		内、太陽光発電設備整備 32,000	内、太陽光発電設備整備 60,000	内、太陽光発電設備整備 108,000			
年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
予算額	372,731	392,184	659,576	326,569	326,913	327,833	306,067	312,067
備 考			内、博物館展示・施設等改修事業 300,000					
年 度	H30							
予算額	330,620							
備 考								

博物館予算(歳出)の推移 (グラフ)

(単位：千円)



5. 沿革

昭和 50(1975)年	8月	北九州市立歴史博物館開館 (8/1)【歴史】
昭和 51(1976)年	1月	特別展「豊前修験道・英彦山展」【歴史】
	10月	小学生の発見をきっかけに、山田弾薬庫跡地で世界最古のニシン料魚類化石 ディプロミスタスが発掘される【自然史】
	10月	特別展「洞海湾の歴史」【歴史】
	10月	北九州産魚類化石展「北九州市の魚類化石～化石から見た北九州～」 主催：北九州市教育委員会・北九州市産魚類化石展示実行委員会【自然史】
昭和 53(1978)年	4月	戸畑市民会館内に「自然史博物館開設準備室」設置【自然史】
	10月	マッコウクジラの生の骨が到着【自然史】
昭和 54(1979)年	1月	「北九州自然史友の会」が発会し、機関誌「わたしたちの自然史」の発行 (1/7)【自然史】
昭和 55(1980)年	7月	特別展「日韓文化交流展～古代のロマンを求めて～」【歴史】
昭和 56(1981)年	5月	北九州市立自然史博物館が八幡駅ビルの2・3・4階を仮施設として開館 (5/2)【自然史】
昭和 58(1983)年	8月	北九州市立考古博物館開館 九州最初の考古学専門博物館として小倉北区金田一丁目に開館 (8/1)【考古】
	10月	特別展「北九州のまつり芸能」【歴史】
昭和 59(1984)年	9月	北九州市と大連市の友好都市締結5周年記念として、中国大連市の大連自然博物館で「世界の 昆虫」展を開催【自然史】
	10月	特別展「北九州甲冑展～よろい・かぶとの歴史～」【歴史】
	12月	響灘沖から巨大珪化木の引き上げ【自然史】
昭和 60(1985)年	10月	特別展「小倉藩創始 細川家の歴史展」【歴史】
昭和 61(1986)年	8月	開館5周年記念特別展「中国の動物と恐竜の世界展」【自然史】
昭和 62(1987)年	10月	特別展「わが町の宝 北九州市の指定文化財展」【歴史】
昭和 63(1988)年	8月	開館5周年記念特別展「北九州の中国陶磁展」【考古】
平成 2(1990)年	10月	特別展「関門の潮流展～翔けぬけた鎌倉武士たち～」【歴史】
平成 4(1992)年	3月	開館10周年記念出版物として「山田緑地の自然」を発行【自然史】
平成 5(1993)年	4月	考古博物館友の会発足【考古】
	10月	開館10周年記念特別展「終末期の古墳展」【考古】
平成 7(1995)年	5月	展示解説ボランティア制度発足【考古】
	8月	戦後50周年記念特別展「北九州平和資料展～戦時下の市民の暮らし～」【歴史】
平成 8(1996)年	7月	展示解説ボランティア制度発足【自然史】
	10月	「東田地区文化施設整備構想検討委員会」(委員長 有馬朗人 東京大学名誉教授)が、「環境」 を共通テーマとする自然史、産業科学、環境、歴史の4館からなるシャイン博物館構想「東田 地区文化施設の整備の方向について」を報告
平成 10(1998)年	8月	開館15周年記念特別展「西と東の縄文土器展」【考古】
平成 11(1999)年	6月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館起工
平成 12(2000)年	10月	特別展「伊能忠敬と九州展」【歴史】
平成 13(2001)年	3月	(仮称)北九州市立自然史博物館・歴史博物館の建物が竣工【総合】
平成 14(2002)年	11月	北九州市立自然史・歴史博物館 開館 (小野勇一館長) (11/3) 開館記念特別展「セイモサウルスとその世界」(11/3～12/28 : 56日間)
平成 15(2003)年	3月	開館記念特別展「COME BACK～よみがえれ文化と生きものたち～」(3/1～4/6 : 37日間)
	4月	特別展「ミネラルワールド九州・山口 わたしたちのまわりの鉱物展」(4/26～6/8 : 44日間 : 25,871人)
	7月	特別展「発見! 虫王国」(7/19～8/31 : 44日間 : 79,687人)
	9月	特別展「恐竜時代の生き物たち」(9/19～10/13 : 25日間 : 12,828人)
	10月	特別展「発掘された日本列島 2003」(10/26～11/30 : 36日間 : 11,260人)
	12月	企画展「絵で見る植物の世界」(12/6～12/23 : 18日間)
平成 16(2004)年	1月	企画展「博物館のお正月」(1/2～2/1 : 31日間)

- 3月 企画展「博多祇園山笠展～まつりにみる福岡の歴史～」(3/5～4/11：38日間)
- 4月 特別展「葛飾北斎展」(4/23～5/23：31日間：14,262人)
- 7月 特別展「からくり・ロボット体験ランド」(7/17～9/5：51日間：50,712人)
- 10月 企画展「～片山正信氏の版画に見る～昭和の北九州百景」(10/1～12/26：87日間)
- 10月 企画展「檻樓の世界～堀切辰一・布のいのち見つめて～」(10/8～11/28：52日間)
- 平成 17(2005)年 1月 特別展「古代都市誕生～飛鳥時代の仏教と国づくり～」(1/2～2/20：50日間：11,590人)
- 3月 特別展「なぜ？なに？ 動物ワールド」(3/19～5/8：51日間：26,638人)
- 7月 特別展「生きもの大集合 世界の両生・爬虫類展」(7/16～9/4：51日間：76,623人)
- 10月 企画展「鶏民芸品展～秋篠宮コレクション～」(10/8～11/20：44日間)
- 入館者 100万人達成！(10/26)
- 11月 特別展「大名細川家～文と武の軌跡～」(11/18～12/11：24日間：3,739人)
- 12月 特別展「恐竜博 2005～恐竜から鳥への進化～」(12/23～3/31：99日間：207,397人)
- 平成 18(2006)年 4月 企画展「化石王 三葉虫」(4/29～5/28：30日間)
- 7月 特別展「昆虫ワールド・カップ 2006」(7/15～9/3：51日間：76,008人)
- 9月 企画展「アイヌ文様の美～線のいのち、息づくかたち～」(9/23～11/26：65日間)
- 12月 特別展「驚異の地下帝国 始皇帝と彩色兵馬俑展～司馬遷『史記』の世界～」(12/14～3/31：104日間：63,811人)
- 平成 19(2007)年 4月 企画展「有明海 干潟を育む生き物と文化～中尾勘悟写真展～」(4/15～5/6：22日間)
- 7月 開館5周年記念特別展「世界最大の翼竜展～恐竜時代の空の支配者～」
(7/7～9/2：58日間：96,103人)
- 10月 開館5周年記念特別展「修験の歴史と自然～西日本の山の信仰～」
(10/12～11/11：31日間：2,580人)
- 12月 特別展「フェアブルにまなぶ」(12/22～2/11：52日間：18,658人)
- 平成 20(2008)年 3月 入館者 200万人達成！(3/22)
- 企画展(開館5周年記念事業)「5年間のあゆみ展」(3/22～4/6：16日間)
- 4月 企画展「絵で見る植物界の多様性 原田英子植物画展」(4/19～5/11：23日間)
- 7月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「近代北九州百年の歩み」を仁川広域市立博物館で開催(7/19～9/21：65日間)
- 特別展「シーラカンス展 ブラジルの化石と大陸移動の証人たち」(7/12～8/31：51日間：56,360人)
- 8月 北九州市・仁川広域市姉妹都市提携20周年記念展「開港場仁川の情景」(8/2～10/5：65日間)
- 10月 特別展「美しき九州の旅～「大正広重」初三郎がえがくモダン紀行～」(10/11～11/30：51日間：6,659人)
- 平成 21(2009)年 1月 特別展「小倉のお殿さま～小笠原家と城下町～」(1/2～2/8：38日間：6,513人)
- 3月 企画展「ひとと海のものごたがり」(3/1～5/10：71日間)
- 5月 企画展「自然史友の会って何？ 友の会30年のあゆみと活動」(5/23～6/14：23日間)
- 平成 20(2008)年 7月 特別展「恐竜ラボ 2009～よみがえれ！恐竜ワールド」(7/18～8/31：45日間：64,628人)
- 9月 特別展「世界遺産ナスカ 地上絵の謎」(9/19～11/23：66日間：30,266人)
- 平成 22(2010)年 1月 特別展「布のこころ 受け継がれる母の想いとくらしの美」(1/2～2/21：51日間：6,567人)
- 2月 中国大連市の旅順博物館と友好交流協定を締結(2/6)
- 3月 特別展「どうぶつ大集合！肉食系？草食系？ なにをたべているのかな？」(3/20～5/30：72日間：28,327人)
- 4月 伊藤明夫館長が就任
- 7月 特別展「昆虫大接近！～みんなであそぼう・虫たちの森～」(7/17～9/5：51日間：71,641人)
- 10月 特別展「禅寺広寿山の名宝～小倉にひらいた中国文化の華～」(10/9～11/28：51日間：4,881人)
- 11月 仁川広域市立博物館、旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」調印(11/6)
- 平成 23(2011)年 1月 特別展「古代メキシコ・オルメカ文明展 マヤへの道」(1/2～3/31：89日間：22,598人)
- 入館者 300万人達成！(1/15)
- 2月 入館者 300万人達成記念「ありがとう祭」(2/11～13：3日間)
- 4月 特別展「エビとカニのふしぎ 杉浦千里博物画の世界」(4/23～5/31：39日間：19,297人)
- 7月 特別展「世界の両生類・爬虫類大集合！」(7/16～9/4：51日間：74,797人)

- 10月 特別展「大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵大連古写真展／鉄道展～あじあ号から新幹線～」
(10/7～12/11：66日間：11,493人)
- 平成24(2012)年 12月 特別公開「小惑星探査機『はやぶさ』帰還カプセル」(12/22～12/25：4日間：11,158人)
1月 特別展「大内文化と北九州 戦国の世に花開く雅の世界」(1/2～2/12：42日間：4,559人)
3月 特別展「アンモナイトのふしぎ～首長竜やモササウルスとの戦い～」(3/10～5/6：58日間：25,121人) 同時開催「みんなで救った被災標本展」(同期間：6,857人)
7月 特別展「対決！恐竜展」(7/14～9/23：72日間：102,921人)
10月 特別展「いのちのたび博物館 10年のあゆみ～とおきのコレクションが勢ぞろい～」
(10/20～12/2：44日間：30,283人)
- 平成25(2013)年 11月 開館10周年記念行事(11/3～4)
12月 リニューアル工事閉館(12/3～3/22)
3月 リニューアルオープン(3/23)
4月 北九州市制50周年記念特別展「北九州市の宝もの」(4/20～6/16：58日間：30,740人)
7月 北九州市制50周年記念特別展「世界の昆虫展」(7/13～9/1：51日間：125,805人)
入館者400万人達成！(7/25)
9月 北九州市制50周年記念特別展「邪馬台国が見える!! 古代日本の原風景」
(9/14～11/4：52日間：20,990人)
12月 北九州市制50周年記念特別展「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」
(12/21～28, 1/2～2/11：49日間：24,852人)
- 平成26(2014)年 3月 特別展「まるごと猫展」(3/15～6/1：79日間：54,700人)
年間入場者60万人超達成！(3/31：622,701人。過去10年間[H15～24]の最多は平成17年度483,495人で、平均は363,379人)
3月 リニューアルオープン(3/23)
7月 特別展「THE モンスター展～自然界の怪物たち～」(7/19～9/23：67日間：117,585人)
- 平成27(2015)年 11月 特別展「メタルズ！～変容する金属の美～」(11/1～12/23：53日間：11,448人)
3月 特別展「地球からの贈り物～石の美と魅力～」(3/21～5/10：51日間：26,182人)
4月 上田恭一郎館長が就任
7月 入館者500万人達成！(7/4)
入館者500万人達成記念特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」(7/11～9/23：75日間：102,123人)
- 平成28(2016)年 10月 入館者500万人達成記念特別展「医は仁術～解体新書からiPS細胞まで～」
(10/10～1/11：90日間：20,058人)
1月 特別展「大正・昭和の暮らしと風景～版画に見る／布が語る～」(1/23～2/28：37日間：6,535人)
3月 特別展「ふしぎの教室～よみがえる学校標本たち～」(3/19～5/15：58日間：30,891人)
7月 特別展「恐竜博2016」(7/9～9/4：58日間：125,153人)
- 平成29(2017)年 10月 特別展「関門幕末維新伝」(10/1～11/27：58日間：15,327人)
1月 特別展「発掘された日本列島2016」(1/2～2/19：49日間：10,826人)
3月 特別展「ホントはすごい！どうぶつ展～飛ぶ！走る！泳ぐ！～」(3/18～5/14：58日間：50,594人)
7月 開館15周年記念イベント第1弾(7/14～9/3)
7月 開館15周年記念特別展「大昆虫博」(7/15～9/3：51日間：122,294人)
7月 入館者600万人達成！(7/27)
10月 開館15周年記念イベント第2弾(10/7～2/25)
10月 開館15周年記念特別展「最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真」(10/7～12/3：58日間：11,436人)
12月 開館15周年記念特別展「アクア・キングダム～スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち～」
(12/23～2/25：61日間：37,227人)
- 平成30(2018)年 3月 特別展「Bones～骨、ほね、ホネ～」(3/17～5/13：58日間：37,000人)
7月 特別展「へんてこモンスター」(7/14～9/24：73日間：119,141人)

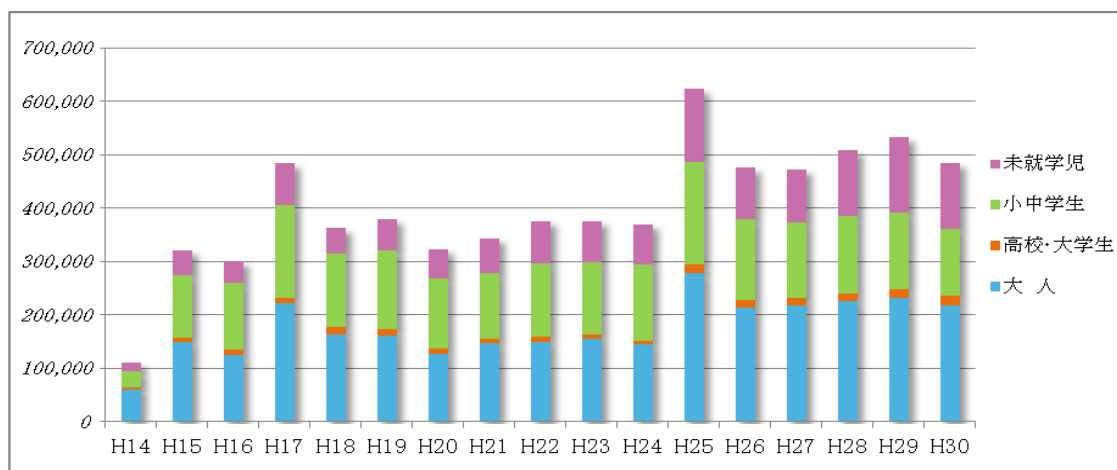
10月 特別展「食のたび～箸と和食の文化史～」(10/20～12/9：51日間：9,793人)
11月 東田ミュージアムパーク食の祭典2018(11/17～18)
12月 特別展「世界遺産のまち北九州と明治日本の産業革命遺産」
(12/22～2/11：48日間：22,099人)
平成31(2019)年 3月 特別展「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」
(3/16～5/12：58日間：47,859人)

6. 入館者の状況

※平成 14 年度は、11/3～11/10 無料期間 51,905 人を累計に含む。

※平成 24 年度は、12/3～3/22 が改装工事で休館。

	年度	大人	高校・大学生	小中学生	未就学児	年計	累計
入館者 総数 (人)	14	60,946 (55.1%)	2,677 (2.4%)	29,903 (27.0%)	17,096 (15.5%)	110,622 (100.0%)	162,527
	15	148,376 (46.2%)	7,950 (2.5%)	117,407 (36.5%)	47,692 (14.8%)	321,425 (100.0%)	483,952
	16	124,591 (41.5%)	9,262 (3.1%)	125,566 (41.8%)	40,644 (13.6%)	300,063 (100.0%)	784,015
	17	220,645 (45.6%)	11,699 (2.4%)	173,303 (35.9%)	77,848 (16.1%)	483,495 (100.0%)	1,267,510
	18	163,725 (45.2%)	12,630 (3.5%)	137,387 (37.9%)	48,549 (13.4%)	362,291 (100.0%)	1,629,801
	19	160,194 (42.2%)	12,771 (3.4%)	147,601 (38.9%)	58,881 (15.5%)	379,447 (100.0%)	2,009,248
	20	125,898 (39.0%)	10,487 (3.2%)	131,344 (40.7%)	54,997 (17.2%)	322,726 (100.0%)	2,331,974
	21	145,843 (42.5%)	8,151 (2.4%)	124,106 (36.1%)	65,290 (19.0%)	343,390 (100.0%)	2,675,364
	22	148,752 (39.6%)	10,516 (2.8%)	137,441 (36.6%)	78,881 (21.0%)	375,590 (100.0%)	3,050,954
	23	154,803 (41.2%)	8,933 (2.4%)	134,619 (35.8%)	77,299 (20.6%)	375,654 (100.0%)	3,426,608
	24	144,271 (39.0%)	7,267 (2.0%)	143,409 (38.8%)	74,764 (20.2%)	369,711 (100.0%)	3,796,319
	25	277,499 (44.6%)	16,837 (2.7%)	191,914 (30.8%)	136,451 (21.9%)	622,701 (100.0%)	4,419,020
	26	214,140 (45.1%)	13,880 (2.9%)	150,867 (31.8%)	96,052 (20.2%)	474,939 (100.0%)	4,893,959
	27	216,842 (45.9%)	14,645 (3.1%)	141,525 (30.0%)	99,377 (21.0%)	472,389 (100.0%)	5,366,348
	28	224,878 (44.3%)	15,445 (3.0%)	144,379 (28.4%)	123,301 (24.3%)	508,003 (100.0%)	5,874,351
	29	230,942 (43.4%)	16,879 (3.2%)	142,794 (26.8%)	141,495 (26.6%)	532,110 (100.0%)	6,406,461
	30	218,100 (45.1%)	16,591 (3.4%)	126,849 (26.2%)	122,476 (25.3%)	484,016 (100.0%)	6,890,477



7. 視察受け入れ状況

平成 30 年度 視察訪問受け入れ状況

No.	月日	申請者	訪問者・団体	人数
1	4月28日	福井県観光営業部ブランド営業部	福井県立恐竜博物館長ほか	4
2	7月3日	福智町図書館・歴史資料館	福智町図書館・歴史資料館	18
3	7月19日	北九州市企画調整局政策部世界遺産課	富岡市 富岡製糸場戦略課職員	2
4	7月23日	環境省	TEEN フォーカルポイントほか	8
5	7月31日	北九州市社会科研究協議会	北九州市小学校教員	100
6	8月2日	長崎国際大学	上海大学教職員ほか	2
7	8月3日	北九州市環境局環境国際戦略課	スラバヤ市訪問団	8
8	8月4日	九州大学総合研究博物館	九州大学総合研究博物館教員	17
9	8月6日	北九州市中学校教育研究会理科部会	北九州市中学校理科教員	34
10	8月26日	福岡県企画・地域振興部国際局地域課	日韓海峡沿岸県市道共同交流事業参加者	12
11	10月6日	北九州市環境局環境学習課	日中韓環境教育ネットワーク (TEEN)	23
12	10月7日	北九州市企画調整局国際部	タイ国立シーナカリン・ウィロート大学附属ブラサンミット小学校	26
13	11月9日	北九州市商業・サービス産業政策課	政令指定都市大規模小売店舗立地法連絡会議	27
14	11月18日	九州国立博物館ボランティア環境部会	九州国立博物館ボランティア環境部会員	33
15	11月20日	国立科学博物館	国立科学博物館事業推進部職員ほか	4
16	11月28日	北海道むかわ町恐竜ワールド戦略室	北海道むかわ町穂別博物館学芸員ほか	3
17	11月29日	延岡市学校教育研修所	延岡市教育委員会学校教育課指導主事ほか	1
18	12月14日	衆議院事務局憲政記念館	衆議院庶務部文書課職員ほか	4
19	1月23日	鹿児島県博物館協会	鹿児島県博物館協会会員ほか	21
20	2月9日	小倉南北区社会科授業改善サークル	小倉南北区社会科授業改善サークル員	15
21	2月12日	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館	岐阜かかみがはら航空宇宙博物館職員	3
22	2月16日	北九州市立大学文学部	仁川広域市立博物館学芸員ほか	7
23	3月1日	北九州市企画調整局国際部	上海市復旦大学附属中学職員	4
24	3月2日	全国若手市議会議員の会九州ブロック	全国若手市議会議員の会所属議員	8
25	3月7日	札幌市市民文化局	札幌市市民文化局文化部学芸員ほか	2
26	3月12日	栃木県立博物館	栃木県立博物館研究員	1

合計 387

8. 広報・報道実績

(1) 平成30年度 博物館から報道機関（市政記者クラブ）に情報提供した件数
26件

(2) 平成30年度特別展等関連広報・報道状況記録

1) 春の特別展「Bones」関連（H30.4.1分から）

ア) 新聞	5誌	46件	エ) ラジオ	2社	2件
イ) 雑誌等	11誌	17件	オ) インターネット	11社	12件
ウ) テレビ	4社	22件			

2) 夏の特別展「へんてこモンスター」関連

ア) 新聞	3誌	111件	エ) ラジオ	4社	12件
イ) 雑誌等	13誌	18件	オ) インターネット	14社	17件
ウ) テレビ	5社	18件			

3) 秋の特別展「食のたび」関連

ア) 新聞	4誌	94件	エ) ラジオ	3社	46件
イ) 雑誌等	8誌	16件	オ) インターネット	18社	20件
ウ) テレビ	2社	46件			

4) 冬の特別展「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命遺産」関連

ア) 新聞	5誌	92件	エ) ラジオ	1社	1件
イ) 雑誌等	9誌	15件	オ) インターネット	13社	16件
ウ) テレビ	0社	0件			

5) 春の特別展「獣は毛もの」関連（H31.3.31分まで）

ア) 新聞	3誌	101件	エ) ラジオ	3社	49件
イ) 雑誌等	10誌	12件	オ) インターネット	12社	13件
ウ) テレビ	4社	41件			

6) その他(特別展以外)

ア) 新聞 5誌 28件

「絶滅大型魚類の新種化石 白亜紀後期の地底地層から」(西日本新聞)

「旅行好きが選ぶ! 国内ランキング いのちのたび博物館5位」(読売新聞) ほかに

イ) テレビ 3社 5件

「ブラタモリ 関門海峡」(NHK総合)

「恐竜すず払い」(RKB、FBS、KBC) ほかに

(3) 平成30年度 ホームページアクセス数 453,289件

(4) 平成30年度 SNS (twitter、facebook) での情報発信数 395件

9. 特別展

(1) 「Bones～骨、ほね、ホネ～」

期 間 :平成 30 年 3 月 17 日(土)～平成 30 年 5 月 13 日(日)
58 日間 (前年度からの継続事業)

会 場 :ギャラリー館及びオープンギャラリー

入 場 料 :大人 500 円 (団体 400 円)、高・大生 300 円 (同 240 円)、小・中生 200 円 (同 160 円)、未就学児無料

観覧者数 : 37,000 名 ※会期を通しての総入場者数

担当学芸員 :馬場 稔・大橋智之

主 催 :北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援 :福岡県教育委員会

協 力 :津田堅之介生物生態写真研究所、橋元浩一



概 要

哺乳類をはじめとして主に現生脊椎動物の全身骨格および頭骨や四肢骨など部分骨を展示し、形や大きさの違い等を紹介した。骨は、体をささえ、筋肉と共に働いて体を動かし、脳など大切な部分を守るといった重要な役割を果している。また、生きものの骨格標本は、進化の結果としてできあがった美しさも備えている。形態や大きさの比較とともに骨の役割を考え、その美しさを実感してもらうことを目的とした。

主な展示標本

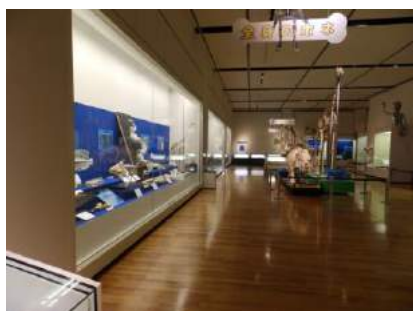
ピラルク、オオサンショウウオ、ビルマニシキヘビ、ダチョウ、ジャガーなど魚類から哺乳類まで代表的な種類の全身骨格を展示した。部分骨の比較では、多数の肉食獣・草食獣の頭骨を展示し形態の違いを紹介したほか、ほとんどの哺乳類の頸椎が7個であること、四肢骨のつくりが基本的に似通っていること、骨の断面の構造などを紹介した。また、骨が化石化する過程や恐竜やワニの頭骨が多くの部分にわかれることなども紹介、全体で約80種、350点の標本で構成した。

角の展示に関連して、津田堅之介ミニ写真展としてニホンジカの生態写真を多数展示した。

関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を2回、実物の骨にさわって観察してもらう「タッチ・ザ・ボーン」のワークショップを6日間で12回、「身近な食べ物から骨の形を知ってみよう～フライドチキンからわかる骨の比較～」の実習・講話を1回実施した。さらに、新しい試みとしてツイッターを使ったBonesフォトコンテストを実施した。

(馬場 稔)



いろいろな全身骨格



ワニ類頭骨の構成

(2) 「へんてこモンスター ～海から始まったその軌跡～」

期 間 : 平成30年7月14日(土)～平成30年9月24日(月・振替休日) 73日間

会 場 : ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料 : 大人800円(団体640円)、高・大生500円(同400円)、小・中生400円(同320円)、未就学児無料

観覧者数 : 119,141人

担当学芸員 : 御前明洋

主 催 : 北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社、RKB毎日放送

後 援 : 福岡県教育委員会、NHK北九州放送局

特別協賛 : 全労済福岡

協 力 : ビッグベアーズフーズサービス、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」

展示協力 : 国立科学博物館、JAMSTEC(国立研究開発法人海洋研究開発機構)、三笠市立博物館、和歌山県立自然博物館、永広昌之(東北大学総合学術博物館)、島添恒太(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会)、田中源吾(金沢大学)、棚部一成(東京大学)、広渡俊哉(九州大学)、星野修(ダイビングサービス チャップ)、水野吉昭(東海化石研究会)、山根一眞(山根事務所)



概 要

奇妙な形態や生態をもつ生物の現生・化石標本約1,300点(動物16門、被子植物、有孔虫、紅藻)と20種以上の生体を展示し、生物の多様性を紹介した。それにより、これまで地球上に様々な生物が出現し絶滅していったことや、現在も多様な生物が暮らしていることを実感してもらえるようにした。また、マッコウクジラの胃の内容物として北九州空港沖に流れ着いたダイオウイカの顎や、カブトガニなど、北九州市周辺で採集された現生・化石標本を展示することにより、身近なところにも多様な生物や化石が存在することを紹介した。夏の特別展では7年連続で観覧者数10万人を突破した。

主な展示標本

史上最大のイカとタコの下顎実物化石、体長2.4mの巨大なタコ(ヒキダコウモリダコ)の復元模型、体長2.3mの巨大な“ヤスデ”(アースロプレウラ)の復元模型、世界初公開の新種(ヤミノヨロイヨコエビ)を含む多数の深海生物、数多くのアンモナイトやチェンジャン地域産のカンブリア紀の実物化石など、様々な生物の標本を展示した。また、構造色を持つモルフォチョウは回転する展示台で展示したほか、市内産のアラトコンカ科二枚貝化石をハンズオン展示し、会場の天井には、全長20mに達したと推定されるハボロダイオウイカの実物大ペーパークラフトを設置した。

関連事業

関連イベントとして、ナイトミュージアム(3回)や学芸員によるギャラリートーク(5回)を開催した。また、会期中の7月・8月の金曜日と9月の日曜日にタッチプールを行った。

(御前明洋)



(3) 「食のたび ―箸と和食の文化史―」

期 間 :平成 30 年 10 月 20 日(土)～平成 30 年 12 月 9 日(日)
51 日間

会 場 :ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料 :大人 500 円 (団体 400 円)、高・大生 300 円 (同 240 円)、小・中生 200 円 (同 160 円)、未就学児無料

観覧者数 :9,793 人

担当学芸員 :上野晶子・宮元香織

主 催 :北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援 :福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

協 力 :中華人民共和国遼寧省大連市旅順博物館・大韓民国
仁川広域市立博物館ほか 11 機関・団体

概 要

北九州市立自然史・歴史博物館、大韓民国の仁川広域市立博物館、中華人民共和国大連市の旅順博物館の 3 館が「東アジア友好博物館交流事業」の一環として開催する第 2 回巡回展「箸と生活―中日韓箸文化展」(旅順博物館企画)を拡充し、中国の箸文化と日本の食文化の形成と特質を日本列島や東アジアの文化交流の中で考える特別展「食のたび―箸と和食の文化史―」として開催した。展示構成は、第 1 章「箸と生活―中日韓箸文化展」第 2 章「日本の食と箸」第 3 章「和食の誕生」第 4 章「動物観と食文化」とし、古代の食器類や近世から近代にかけての絵画資料、文書などを展示した。また、来館者がイメージしやすいよう食品サンプルを使って復元した長屋王の復元膳や織田信長が徳川家康をもてなした復元膳などを展示するとともに、地元資料として、中世博多の遺跡から出土した器類(重要文化財)や黒田藩が朝鮮通信使をもてなす際に用意した膳なども展示した。

主な展示資料

食材としての魚類や鳥類について注目し魚譜や武家の鷹狩に関する文書や鳥の剥製などを展示した。

関連事業

特別展イベントとして、国士舘大学 21 世紀アジア学部原田信男氏の講演会、学芸員によるギャラリートーク、古代や江戸時代の料理を作る歴食クッキング、試飲してダシの材料をあてる利きダシ、ナイトミュージアムなどを行った。

(上野晶子)



(4) 「世界遺産のまち 北九州と明治日本の産業革命遺産」

期 間 :平成 30 年 12 月 22 日 (土) ～平成 31 年 2 月 11 日 (月)
12 月 29 日 (土) ～1 月 1 日 (火) は休館 (48 日間)

会 場 :ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料 :常設展料金で観覧可能

観覧者数 :22,099 人

担当学芸員 :日比野利信・馬場由行

主 催 :北九州市立自然史・歴史博物館
「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議

共 催 :九州歴史資料館、大牟田市石炭産業科学館、
中間市教育委員会、富岡市

後 援 :「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会

協 力 :新日鐵住金株式会社八幡製鐵所ほか 11 機関・団体



概 要

「明治 150 年」と「明治日本の産業革命遺産」世界文化遺産登録 3 周年を記念して、「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議が主催し、本市と中間市・大牟田市を巡回する「鉄都・八幡の誕生」を第 1 部とし、「明治日本の産業革命」の中で北九州が著しい発展を遂げたことを明示する「石炭と鉄がつくった工業都市・北九州」を第 2 部、八幡製鐵所と同じく官営工場で、世界文化遺産の富岡製糸場の歴史と価値を紹介する「富岡製糸場」を第 3 部として独自に追加して開催した。以上により「明治日本の産業革命遺産」の意義と北九州の近代史を浮き彫りにして、地域の歴史に対する知識と関心を高めることができた。

構 成

第 1 部 「鉄都・八幡」の誕生（「明治日本の産業革命遺産」企画展 1）

序 章 明治日本の産業革命遺産

第 1 章 近代製鉄の鼓動

第 2 章 八幡製鐵所の登場

第 3 章 鉄都・八幡

第 2 部 石炭と鉄がつくった工業都市・北九州

第 1 章 筑豊の石炭と炭鉱の記憶

第 2 章 石炭輸送と北九州の都市発展

第 3 章 安川・松本家と北九州

第 3 部 富岡製糸場— もう一つの「明治日本の産業革命遺産」／官営工場 —

主な展示品

八幡製鐵所資料（図面・写真・鋼材など）、八幡市関係資料（地図・絵葉書・市歌など）、山本作兵衛最大の炭鉱記録画を含む原画 10 点、大辻炭鉱・国鉄香月線関係資料、紙芝居「小倉炭鉱物語」原画（森山尚二 画）、吉田初三郎画「若松市鳥瞰図」「戸畑市鳥瞰図」原画、安川家資料、明治専門学校鉱物標本・器具類、熊本県蚕業試験場養蚕道具

関連事業

特別展会場と常設展のテーマ館を回るギャラリートーク「ひびのとぶらっと」を 3 回開催し、多数の聴衆に集まっていた。

(日比野利信)

(5) 「獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～」

期 間 : 平成 31 年 3 月 16 日 (土) ～令和元年 5 月 12 日 (日)
58 日間 (次年度への継続事業)

会 場 : ギャラリー館、オープンギャラリー

入 場 料 : 大人 500 円 (団体 400 円)、高・大生 300 円 (同 240 円)、
小・中生 200 円 (同 160 円)、未就学児無料

観覧者数 : 47,859 名 ※会期を通しての総入場者数

担当学芸員 : 馬場 稔・中原 亨

主 催 : 北九州市立いのちのたび博物館、毎日新聞社

後 援 : 福岡県教育委員会、NHK 北九州放送局

協 力 : 北九州市立総合農事センター、琉球大学哺乳類生態研
究室、荒井秋晴



概 要

哺乳類の大きな特徴の一つとして、体表面に「毛」を持つことがあげられる。体毛には体をけがや紫外線から守り、体温をたもつ働きがある。また、季節によって色や模様などが変化する動物もいる。この特別展では、いろいろな毛をもった哺乳類の剥製標本や毛皮標本を数多く展示し、それぞれの特徴と役割を紹介するほか、鳥類の羽毛や爬虫類の鱗との比較も示した。

主な展示標本

ジャコウウシ、ヒツジなど柔らかく長い毛をもつもの、イノシシやアルマジロなど硬く太い毛や甲羅状の皮膚をもつもの、ラッコやアザラシなどなめらかな毛をもつもの、ハリネズミやヤマアラシなど針状の毛をもつものなど、様々な哺乳類の剥製標本や毛皮標本約 50 種 100 点を展示した。また、体験型の展示としてそれぞれの特徴をもった種類のさわれる標本を準備した。

特別展示として、北九州市立総合農事センターで飼育され市民に親しまれていた木曾馬「幸春号（愛称さっちゃん）」の剥製標本と骨格標本を同時公開した。

関連事業

会期中、「ナイトミュージアム」を 2 回、デジタル顕微鏡で毛を観察するワークショップ「毛を近くで見ると・・・？」を 4 日間で 8 回、ライオンの剥製標本に座って記念撮影ができる「ライオン家族に仲間入り！」を 4 日間実施した。
(馬場 稔)



ふわふわな柔らかい毛をもつ動物



さまざまな毛皮標本とさわれる剥製標本

【参考】平成 30 年度特別展総入館者数 189,743 人

※但し 2 カ年度にまたがる春の特別展の観覧者数は会期を通しての総入館者数を記載しています。

10. 企画展など

(1) 「明治 150 年記念 書に見る明治の群像」

期 間 : 平成 30 年 4 月 28 日 (土)
~平成 30 年 6 月 17 日 (日)
会 場 : ぼけっとミュージアム No. 9・10
担当学芸員 : 日比野利信

概 要

「明治 150 年」記念として、博物館が所蔵する「明治の群像」と言うべき人びと、具体的には西郷隆盛のほか、吉田松陰、木戸孝允、伊藤博文、山県有朋、東郷平八郎、渋沢栄一、犬養毅、頭山満、与謝野晶子、李鴻章、孫文の書を展示して、筆跡や字句表現などからその人物像に迫り、明治という時代の一面や明治の人びとの精神性を照らし出すことを試みた。その際に、展示作品の多くが安川家資料であることから、北九州を代表する企業家である安川敬一郎との関係にも注目した。



(2) 「大宰府史跡発掘 50 年のあゆみ」

期 間 : 平成 30 年 5 月 24 日 (木)
~平成 30 年 6 月 17 日 (日)
会 場 : ぼけっとミュージアム No. 11
担当学芸員 : 宮元香織

概 要

本展覧会は、九州歴史資料館が企画した大宰府史跡発掘 50 周年記念巡回パネル展である。当館以外に大宰府展示館、ミリカローデン那珂川、春日市奴国の丘歴史資料など、県内約 12 の施設において開催された。

平成 30 年は、昭和 43 年に大宰府史跡の発掘調査が始まってから 50 年の節目にあたるため、この間の発掘調査成果を広く公開することを目的に企画された。北九州と大宰府はかなり離れているものの、その影響は古代においては決して小さいものではない。パネルのみの展示であったが、発掘現場の写真から出土資料の写真まで、さまざまな画像が掲載されており、来館者の関心が高かった。



(3) 「堀切辰一コレクション襦袢 夏の装い ～涼しく過ごす知恵と工夫～」

期 間 : 平成 30 年 6 月 30 日 (土)
～平成 30 年 9 月 9 日 (日)

会 場 : ぼけっとミュージアム No. 9～11

担当学芸員 : 上野晶子

概 要

庶民が用いた衣類や布類を通してその生活実態を探究する庶民生活史研究家堀切辰一氏の収集した古布コレクション「襦袢」についての企画展。今回は、明治から昭和初期頃の夏の衣料「単衣」に注目し、昭和初期頃までの冷房設備が不十分な中で、夏を涼しく過ごす工夫を紹介した。

第 1 章「夏のハレの日」第 2 章「お出かけは麻の着物で」第 3 章「絞りの遊びと自由な化学繊維」の 3 章構成とし、第 1 章では、通気性が良く肌に張り付かない絹や麻の単衣の晴着を展示した。第 2 章では、外出着として仕立てられた麻の単衣を展示し、昭和初期頃まで小倉地域で特産品とされた「小倉縮」も紹介した。第 3 章では、庶民の単衣として木綿と化学繊維の単衣を展示し、浴衣に施された清涼感のあるデザインによる視覚的効果や、自由なデザインが可能となった化学繊維の登場について紹介した。



(4) 「入門日本刀」

期 間 : 平成 30 年 9 月 29 日 (土)
～平成 30 年 11 月 25 日 (日)

会 場 : ぼけっとミュージアム No. 9～11

担当学芸員 : 松井和幸

概 要

本展覧会は、全日本刀匠会会長である三上高慶氏に監修を依頼しておこなった企画展であり、刀剣をみる際の入門編となるような内容を企画した。

前半部分では刀や剣の基本的な見方や鑑賞の仕方を紹介しながら、館蔵の刀や大刀、脇差など 4 口を展示した。後半部分では三上高慶氏の作品 3 口、全日本刀匠会九州地方支部会員の作品 18 口などを展示・紹介した。作品には作者の顔写真や紹介文などの一文を付し、より親しみがもてるよう工夫した。

期間中のイベントとしては、一般の方対象と、美術館ならびに自治体の文化財担当職員を対象とした刀剣手入れ講習を実施し、刀剣管理の方法についての普及に努めた。毎週日曜日・祝日には会場横にて刀匠会会員による銘切イベントを実施するなどした。



(5) 「変わるわたしたちの暮らし」

期 間 : 平成 30 年 12 月 1 日 (土)
~平成 31 年 3 月 24 日 (日)

会 場 : ぼけっとミュージアム No. 10、11

担当学芸員 : 中西義昌

M T : 小林孝幸・堺 未知・木野田一馬・大友 進

概 要

展示内容は、北九州市立小学校 3 年生の社会科教科書の単元、及び博物館の「昔の道具しらべ」のプログラムを基にして、歴史課と普及課 MT で協議しながら構成した。今回は、平成最後の年であり、小学生 3 年生が 2008 年度生まれであることを念頭に置いて少し前の暮らし・道具について紹介する展示を加えた。構成は以下の通り。①昔の暮らし (昭和 20~40 年代の部屋再現) : 6 畳程度の居間を再現し、その当時の家具・道具を展示。デジタルモニターを組み込んだ当時のテレビで白黒映像を紹介。／②道具のうつりかわり : パネルや実物資料を用いて、大正~昭和 10 年代、昭和 20~40 年、少しむかし~現在の 3 つの時代に分けて家具・道具の変遷を比較して考えることができるよう展示した。／③昔の遊び (ハンズオンコーナー) ／④すこし前の暮らしと道具 (昭和 50~60 年代/平成 10~20 年代) この時代に大きく変化した電子機器や家電製品などを紹介。／⑤北九州市内各地の身近な伝統行事をパネルで紹介。



(6) 「小倉織 ~受け継ぎ 伝えたい 郷土の織物~」

期 間 : 平成 30 年 12 月 22 日 (土)
~平成 31 年 3 月 24 日 (日)

会 場 : ぼけっとミュージアム No. 9

担当学芸員 : 上野晶子

概 要

小倉織は江戸時代の初め頃から豊前小倉地域で織られていた綿織物で、丈夫な布として全国に普及したが時代の変化に伴い衰退した。昭和 59 年 (1984) に染織家築城則子氏が古布片をもとに復元したことで再注目され、当館では小倉織の普及講座として、北九州市生涯学習センター主催市民カレッジ「小倉織を学び、織ってみよう」を実施している。その有志が結成した小倉織伝承会は、次世代へ小倉織を継承するための普及活動や、博物館および豊前小倉織研究会とともに小倉織の製作技術を検証しながら復元をしている。本展示会は、博物館が所蔵する小倉織をもとに小倉織伝承会が製作した反物および袴を展示するもので、あわせて糸車やはた織の実演もおこなった。



(7) 「戸畑市議会議員 守田蓑作と昭和戦後の戸畑」

期 間 : 平成 31 年 1 月 7 日 (月) ~ 令和元年 6 月 30 日 (日)

会 場 : テーマ館「明治時代以降の北九州」

担当学芸員 : 日比野利信

概 要

守田蓑策 (1887~1977) は中津から戸畑に移って「守田運送店」を創業し、昭和 17 年 (1942) 日本通運株式会社に統合されると同社戸畑支店長に就任した。守田は戸畑商工会議所議員・戸畑市会議員・同議長を務めるなど、旧戸畑市の有力者として存在感を誇った。昭和 28 年 (1953) には日本都市計画協会が発行する『新都市』が「北九州 5 市特集」を組んだ際に、戸畑市議会議員の守田は「所感」を寄稿している。今回のテーマ展示では守田蓑策を通して、昭和戦後の戸畑市および北九州地域の様子や雰囲気垣間見ようと試みた。

(8) 自然史ぽけっとミュージアム展示

期 間 : 継続中

会 場 : ぽけっとミュージアム No. 1~8

テーマ

ぽけっとミュージアム No. 1 : 地球と生命

ぽけっとミュージアム No. 2 : シーラカンスと海のおいたち

ぽけっとミュージアム No. 3 : 大連市との交流

ぽけっとミュージアム No. 4 : アンモナイト

ぽけっとミュージアム No. 5 : 世界の海の貝

ぽけっとミュージアム No. 6 : カエルとサンショウウオ

ぽけっとミュージアム No. 7 : 昆虫の世界

ぽけっとミュージアム No. 8 : きたきゅうしゅうの多様な大地、地震のしくみ

(9) エントランス特別展示

[国内最大のアンモナイト下顎化石]

期 間 : 平成 30 年 8 月 8 日(水)~平成 30 年 9 月 24 日(月)

会 場 : エントランス

担当学芸員 : 御前明洋

概 要

当館に寄贈された兵庫県(淡路島)から発見された化石がアンモナイトの下顎化石として国内最大の標本であることが分かり、論文として発表されたことを受け、実物化石の特別公開を行った。



[イクチオデクテス目の1新種]

期 間 : 平成 30 年 9 月 22 日(土)~平成 30 年 9 月 30 日(日)

会 場 : エントランス

担当学芸員 : 大橋智之・日比野友亮

概 要

熊本県天草市御所浦町で見つかった魚類化石が、アジアでは初となる海生イクチオデクテス目の新種であることが分かり、論文として発表されたことを受け、その複製標本の特別公開を行った。



[ウミヘビ科の4新種]

期 間 :平成31年1月25日(金)～平成31年2月8日(金)

会 場 :エントランス

担当学芸員 : 日比野友亮

概 要

日本国内の太平洋岸域と東シナ海で見つかったウミヘビ科魚類4新種が論文として発表されたことを受け、全種についてホロタイプまたはパラタイプ標本の特別公開を行った。



(10) 年末(クリスマス)および年始(干支)展示

[クリスマス展示]

期 間 :平成30年12月6日(木)～平成30年12月25日(火)

会 場 :常設展2階多様性館

担当学芸員 : 馬場 稔

概 要

クリスマスに合わせてトナカイ剥製標本にその模型をとりつけ、サンタクロースの衣装を準備して写真撮影が可能ないように設置した。本年度は設置場所を前年の2階休憩スペースから生命の多様性館内に変更した。

[干支展示]

期 間 :平成30年12月19日(水)～平成31年1月15日(火)

会 場 :生命の多様性館

担当学芸員 : 馬場 稔

概 要

平成31年の干支である亥(イノシシ)にちなみ、毛色の異なるイノシシの剥製標本および頭骨標本を展示した。また、春の特別展(獣は毛もの～ふわふわ、ごわごわ、すべすべ、ちくちく～)の告知をかねて体毛標本も一緒に展示した。



クリスマス展示



干支(イノシシ)展示

1 1. その他の事業

(1) 東アジア友好博物館交流事業

当館は北九州市の姉妹都市の韓国・仁川広域市の仁川広域市立博物館、友好都市の中国・大連市の旅順博物館と「東アジア友好博物館に関する合意書」を締結し、毎年館長会議を開催するとともに、学芸員派遣事業や展示交流事業などを継続的に実施している。現在の主要事業は隔年での「巡回展」の開催で、「東アジアの生活文化」を統一テーマとして、各館が所蔵する実物資料を中心に企画展を構成し、他の2館に巡回するものである。平成28年度に北九州が「衣」を担当して特別展を巡回開催した。

平成30年度は旅順博物館において、第2回巡回展「箸と生活—中日韓箸文化展—」が開催され、9月20日（木）に館長会議が実施された。会議には上田館長、宮元、上野学芸員が出席し、旅順博物館の企画した第2回巡回展について状況報告がおこなわれた。また、第3回巡回展の企画内容について仁川広域市立博物館より報告があり、内容について協議した。また次年度（平成31年度）の事業の当番館が日本であることが確認された。館長会議の後には旅順博物館が主催する国際シンポジウム「箸と飲食文化」において、日本・中国・台湾の食文化研究者による研究発表が実施された。なお、会議終了後は日本で陳列する箸104件の検品・集荷・梱包をおこない、日本まで輸送した。日本においては旅順博物館の「箸と生活」展を拡充し、特別展「食のたび—箸と和食の文化史—」としておこなった（展覧会の詳細については、本年報14ページを参照）。

(宮元香織)



旅順博物館「箸と生活」展



館長会議（9月20日）



旅順博物館主催シンポジウム「箸と飲食文化」



仁川広域市立博物館「箸—偉大なる道具」展

(2) ジオパーク活動推進事業

平成 29 年度に引き続き、ジオパーク活動の普及に向けた取り組みを継続した。本市の貴重な地質遺産の市民への周知を深めるため、より魅力的なジオパーク普及講座の開発・実施やジオサイト・イベント予定を紹介するジオパークホームページの維持管理などを行った。また、日本ジオパークネットワークや九州ジオパーク連絡会主催の事業に参加し他地域との交流と情報収集につとめたほか、講師派遣依頼 2 件に対応した。

主要事業と経過

1) ジオパーク普及講座の実施：

室内講座 (1 回実施)

野外観察会 (ジオツアー、ジオハイキング：7 回実施、1 回雨天中止)

参加者合計 227 名

2) ジオパークホームページの運営 (<http://www.kitakyushu-geo.jp>)、アクセス解析の実施

3) 日本ジオパークネットワーク事業等参加

- ・日本ジオパークネットワーク通常総会参加 (平成 30 年 5 月 25 日、東京都)
- ・第 14 回九州ジオパーク連絡会参加 (平成 30 年 9 月 4 日、長崎県雲仙市)
- ・第 15 回九州ジオパーク連絡会参加 (平成 31 年 1 月 23 日、大分県豊後大野市)

4) 講師派遣依頼対応

- ・第 28 回全国ネイチャーゲーム研究大会 IN 福岡 2018 ワークショップ対応 (平成 30 年 4 月 22 日、若松北海岸 (遠見ヶ鼻)、福岡県シェアリングネイチャー協会)
- ・帆柱自然公園愛護会「会員の集い及び愛護会 45 周年」講演対応 (皿倉山の恐竜時代) (平成 30 年 11 月 11 日、帆柱山、NPO 法人帆柱自然公園愛護会)

(太田泰弘、馬場 稔)

(3) 東田ミュージアムパーク創造事業

当館は東田地区にある環境ミュージアムや北九州イノベーションギャラリー (KIGS)、さらに美術館や児童文化科学館などと相互に連携し、平成 30 年度から 5 年間をかけて、文化庁「地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の助成を受けて、東田ミュージアムパーク実行委員会の中核館として「北九州市東田地区ミュージアムパーク創造事業」を実施している。

初年度は、第一に、これまで個別に事業を行っていた東田の三施設が文化庁のクラスター形成支援事業を活用して、以下の事業を実施することで連携を図り、各施設の強みを活かしながら、相乗効果を高めるための基盤づくりを行った。

○実行委員会の下にワーキンググループを組織し、コーディネーターの助言を得て、本事業の基本構想を策定した。東田地区の将来像として「歴史と未来のものづくりクロスロード 八幡・東田～知る・感じる・想像する 過去から未来へ文化が息づくまち～」を提示した。

○様々な施設が集積する東田地区の魅力を一体的に紹介するとともに、観光インバウンド促進のため英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語に対応したホームページを開設し、統一的・総合的な情報発信の基盤を構築した。

第二に、当館の特別展「食のたび―箸と和食の文化史―」、北九州イノベーションギャラリーの企画展「光のふしぎ展 2」) の開催に際して、広報面で協力・連携するとともに、共同して「東田ミュージアムパーク食の祭典」を実施して、博物館相互の回遊性向上の可能性を探り、連携企画展実施の第一歩を踏み出すことができた。

第三に、博物館の収蔵資料や地域の歴史資源に関するアーカイブを構築するため、以下の事業を実施した。

○東田地区および八幡の文化資源の掘り起こしと保存・継承・活用のための現状把握と課題の洗い出しのため、シンポジウム「発掘！東田地区周辺の歴史と文化資源」を開催した。

○地域の歴史資源アーカイブ構築の端緒として、東田地区周辺の近代建築の調査と写真撮影を行った。
(日比野利信、宮元香織)



東田地区ミュージアムパークホームページ



シンポジウム
「発掘！東田地区周辺の歴史と文化資源」

(4) 博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業

博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業は、博物館の国内外のネットワークを活用し、単独の博物館ではなし得ない新たな取り組みを広め、日本が誇る貴重な未来へのレガシーを継承・発信し、博物館の振興を図ることを目的とし、文部科学省生涯学習局が実施委託の公募を開始した事業である。

平成 29 年度に引き続き、本公募に対し、兵庫県立人と自然の博物館が事業推進担当館となり北海道博物館、栃木県立博物館、三重県立博物館、大阪市立自然史博物館、伊丹市昆虫館、国立科学博物館および当館による実行委員会で、課題「地域に開かれた寺院で巡りあう生命観と生命誌 ー実験展示を通じた社会教育の地域展開ー」を申請し、採択された。

本課題に係る事業として、3 回の実行委員会を実施するとともに、平成 30 年 12 月 14 日から 12 月 24 日に、「仏教と自然 Where culture meets nature～日本文化を育んだ自然～」と題した実験展示を、京都府京都市の龍岸寺において実施した。本展示会は、仏教が生物や自然界の仕組みとも密接な関わりを持ち、人類が自然と共生する上で大切な視線をもたらすこと、また寺が地域コミュニティの核の一つであるという視点から、日本の自然と文化の関わりを伝える展示会とした。技術面でも実験的な取り組みを行い、展示の展開・収納を短時間でできるような展示のパッケージ化を目指した。平成 31 年 1 月 12 日には、北海道大学総合博物館（札幌市）において、公開シンポジウム「ミュージアムが公共空間を彩る」を実施した。

(蓑島悠介、真鍋 徹)



1 2. 教育普及活動

(1) 博物館セカンドスクール事業

博物館が第2の学校（教室）として、子どもたちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、

- (1) 博物館への誘致事業
- (2) 学校教育支援事業
- (3) 家庭教育支援事業

の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館との結びつきを強めるための事業。

1) 博物館への誘致事業

- 博物館への誘致活動

修学旅行等の団体客を誘致するため学校へのガイダンス DVD、パンフレット類の送付及び旅行会社へのPR活動

- 情報発信による博物館利用の案内

- ・情報誌「いのちのたび」を月1回、保育所（園）・幼稚園向けの情報誌を年2回発行
- ・博物館ホームページ、市政だより等の活用

2) 学校教育支援事業

- 博物館活用資料の整備

各種ガイドブック、ワークシート、スタンプラリーシート、体験活動プログラム資料など

- 体験学習プログラムの提供

化石レプリカづくり、ペットボトル顕微鏡づくり、化石発掘体験、勾玉づくり

- 授業づくり支援

「博物館利用の手引き」の紹介、小学校への出前授業、「昔の道具調べ」「土地のつくりと変化」等の館内授業、ディスカバリーボックスの貸し出し等

- 職場体験学習、教員等社会体験研修の受け入れ等

- 環境アクティブ・ラーニング（北九州市教育委員会主催の市内小学校4年生を対象とした体験活動）

- その他

北九州市環境リサーチ隊会場（北九州市教育委員会主催）等

3) 家庭教育支援事業

- いのちのたび子ども教室（20名を定員として前期6回、後期6回で学芸員による講話や体験学習を実施する。）

- 東田サマースクール（夏休み期間中に、北九州イノベーションギャラリー（KIGS）、環境ミュージアムと合同で全3期の体験学習を実施する。）

【平成30年度 学校関係利用状況】

- 誘致活動実績

誘致先	福岡市	山口県	中津市・ 日田市	広島県・ 愛媛県	長崎県・ 佐賀県	久留米市	下関市	沖縄県	大分県	熊本県・ 鹿児島県	合計
訪問社数	9	25	7	30	29	8	6	14	23	12	163

○ 学校関係誘致実績

団体	保・幼	小学校	中学校	高等学校	特別支援	合計
団体数	247	640	65	50	41	1,043
人数	12,820	46,580	5,502	3,223	1,215	69,340

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
学校数	11	3	17	5	36
人数	614	206	1242	196	2,258

授業	昔の道具調べ	土地のつくり	環境アクティブ・ラーニング	合計
学校数	30	14	27	71
人数	1,358	938	1,171	3,467

○ 家庭教育支援事業実績

講座名	いのちのたび子ども教室	東田サマースクール
回数	前期6回 後期6回	3期
参加者数	各回20名のべ240名	各期25名 計75名

【平成30年度 その他団体利用状況】

○ 学校教育支援事業実績

体験プログラム	レプリカ	顕微鏡	化石発掘	勾玉	合計
団体数	14	3	6	4	27
人数	630	48	178	108	964

※ その他団体…市民センター、学童保育クラブ、子ども会 等

(2) 普及講座

1) 自然史系の普及講座

自然史に親しみ、理解を深めてもらうため各学芸員の専門分野の講座を20回企画した(野外観察会：4回、室内講座：9回、たいけん教室：4回、夏休み教室：2回、バスハイク：1回)。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
野外観察会	バードウィーク市民探鳥会	平成30年5月13日	日	19
野外観察会	ジオハイキング「探検！化石の島：藍島」	平成30年5月27日	日	17
野外観察会	ジオハイキング「生きた化石、カブトガニの不思議」	平成30年7月16日	月	49
野外観察会	ジオハイキング「化石と地質のたのしみ方」	平成30年10月7日	日	43
室内講座	昆虫標本作製教室	平成30年6月10日	日	34
室内講座	顕微鏡で見る美しい動物	平成30年6月10日	日	37
室内講座	恐竜教室「アースモールの恐竜たち」	平成30年6月16日	土	23
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	平成30年7月8日	日	24
室内講座	植物細密画を描いてみよう！	平成30年10月28日	日	10
室内講座	恐竜この1年	平成30年12月8日	土	17

室内講座	恐竜すす払い	平成30年12月25日	火	15
室内講座	透明標本で骨のつき方をみてみよう！	平成31年1月19日	土	35
室内講座	小さな化石にふれてみよう！	平成31年2月10日	日	13
たいけん講座	ジオ体験「ジオの恵み：合馬のたけのこ掘り！」	平成30年4月15日	日	40
たいけん講座	ジオハイキング「生命の進化をたどるミニ・ジオハイキング」	平成30年9月16日	日	22
たいけん講座	博物館で秋の植物を楽しもう	平成30年11月18日	日	8
たいけん講座	いろいろなかたちのアンモナイトにさわってみよう！	平成31年2月24日	日	24
夏休み教室	権現山の昆虫観察会	平成30年7月21日	土	37
夏休み教室	ジオハイキング「恐竜時代の大地！皿倉山ウォーキング」	平成30年8月19日	日	18
バスハイク	ジオツアー「学芸員とめぐる北九州周辺の化石産地と代表的地層！」	平成30年11月4日	日	37

合計20回 552人

2) 歴史系の普及講座

歴史や文化にかかわる講座を実施し、理解につとめた。連続講座では、より深い学習を求める方々に向けた講座を行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
室内講座	近世文書読み方講座	平成30年4月～平成31年3月	第4水	53(のべ636)
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く①帆柱山城跡	平成30年4月15日	日	12
たいけん講座	若武者に変身！	平成30年5月5日	土・祝	72
室内講座	ミニ掛軸を作ろう	平成30年7月22日	日	6
歴史探訪講座	北九州の城跡を歩く②長野城跡	平成30年11月11日	日	21

合計5回 747人

3) 自然史・歴史合同の普及講座

「いのたび自然塾」と称して、自然史課・歴史課共同で自然学習園などにおいて自然の恵みと人々の歴史を考えるイベントを行った。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
いのたび自然塾	藍のたたき染めでオリジナルエコバッグを作ろう！	平成30年7月27日	金	37
いのたび自然塾	どんぐり祭り！たべよう・あそぼう	平成30年11月10日	土	13

合計2回 50人

4) 特別展の普及講座等

特別展に関連した講座等として下記を開催した。

種別	講座名	開催日	曜日	人数
関連イベント	ワークショップ「タッチ・ザ・ボーン」 ～さわって実感！ほねのいろいろ～	平成30年4月7日、4月14日、4月28日、5月12日	土、日	160
関連イベント	身近な食べ物から骨の形を知ってみよう ～フライドチキンからわかる骨の比較～	平成30年4月21日	日	9
関連イベント	奇妙な生き物解説	平成30年7月24日、7月31日、8月21日、8月28日(以上火曜日)、9月8日(土曜日)	火・土	190
関連イベント	タッチ・プール	平成30年7月20日、7月27日、8月3日、8月10日、8月17日、8月24日、8月31日(以上金曜日)、9月2日、9月9日、9月16日、9月23日(以上日曜日)	金・日	9,099

関連イベント	ナイトミュージアム	平成30年8月4日、8月25日、9月15日	土	1,501
記念イベント	「食のたび」関連講演会「日本の食文化と和食の発達」	平成30年10月20日	土	134
関連イベント	ハロウィン☆ナイトミュージアム	平成30年10月27日	土	274
関連イベント	「食のたび」ワークショップ 利きダシ	平成30年10月28日、11月28日、12月2日	日	150
関連イベント	室町時代から続く大草流包丁式	平成30年11月4日	日	100
関連イベント	「食のたび」ギャラリートーク	平成30年11月18日、12月2日	日	40
関連イベント	「和食の日」特別企画歴史食クッキング	平成30年11月24日	土・日	124
関連イベント	特別展ギャラリートーク「ひびのとぶらっと」	平成30年12月23日、平成31年1月13日、 2月10日	日	120
関連イベント	ナイトミュージアム	平成31年3月23日	土	451
関連イベント	ライオン家族に仲間入り！	平成31年3月30日	土	184
関連イベント	ワークショップ「毛を近くで見ると…？」	平成31年3月31日	日	10

合計 39回 12,546人

(3) 博物館実習

1) 自然史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。5日間と8日間を学生が選択。

* 1期：8月7日（火）～8月18日（土）、日曜・月曜休講の10日間

- ・人数：8名（うち4名は5日間）
- ・所属大学：立教大学1名、京都女子大学1名、神戸芸術工科大学1名、岡山理科大学1名、東亜大学2名、佐賀大学1名、琉球大学1名

* 2期：8月28日（火）～9月8日（土）、日曜・月曜休講の10日間

- ・人数：10名（うち7名は5日間）
- ・所属大学：北海道大学1名、京都造形芸術大学1名、尾道市立大学1名、広島大学1名、福岡教育大学2名、九州産業大学1名、九州保健福祉大学2名、宮崎大学1名

2) 歴史課博物館実習

学芸員課程の学生を受け入れ、各学芸員が数講座ずつ担当した。

- ・期間：8月21日（火）～8月25日（土）および当館が指定した5日間
- ・人数：6名
- ・所属大学：北九州市立大学3名、九州産業大学2名、京都美術工芸大学1名

(4) 職場体験・職員研修受け入れ

教育機関等からの依頼を受け、生徒・学生・教職員などが研修生として働くことで、将来に向けての就業体験や社会人として広く見識を深めることが出来るように研修の企画・運営を行った。

1) 職場体験受け入れ

- ・鎮西敬愛学園敬愛中学校（平成30年7月11、12日 4名）
- ・西南女学院中学校（平成30年8月8、9日 3名）
- ・岡垣町立岡垣中学校（平成30年9月12、13日 4名）
- ・福岡県立若松高等学校（平成30年10月24、25日 4名）
- ・北九州市立枝光台中学校（平成30年12月5、6日 4名）

2) 職員等研修受け入れ

- ・福岡県立直方高等学校 (平成 30 年 8 月 1 日～3 日 教諭 1 名)
- ・福岡県立稲築志耕館高等学校 (平成 30 年 8 月 1 日～3 日 教諭 1 名)
- ・福岡県立田川科学技術高等学校 (平成 30 年 8 月 1 日～3 日 教諭 1 名)

3) プレ・インターンシップ受け入れ

- ・福岡県立大学 (平成 30 年 9 月 4 日～8 日 1 名)

(5) 外部機関の依頼による講演など

小・中学校や高等学校・大学など学校教育機関、年長者大学校や市民センターなど社会教育機関ほか外部機関の依頼を受けて、学芸員が専門分野に関する講演などを行った。

1) 自然史課

23 回：市内の市民センターや教育センター、帆柱自然公園愛護会、日本野鳥の会北九州支部などの NPO 団体をはじめ、JICA や北九州市立大学、福岡大学、長崎国際大学、広島大学などからの依頼を受け、自然史に関する講演等を行った。

2) 歴史課

26 回：穴生学舎・周望学舎（年長者大学校）や市民センター、門司郷土会や市内外各地の歴史講座などで、小倉藩主小笠原忠真、幕末維新史、黒崎宿と木屋瀬宿、戊辰戦争、近代の小倉城、明治日本の産業革命遺産、安川・松本家、北九州市の歴史と現在、写真に見る北九州市の歴史など、近世～近代を中心に北九州市の歴史に関する講演を行った。

(6) 公務による大学での講義

1) 自然史課

- ・北九州市立大学
 - 「自然史へのいざない」 自然史課学芸員全員 10 名 10 コマ
 - 「地球環境システム論」 真鍋 徹 2 コマ
- ・九州大学大学院
 - 「先端学際科学」 森 康 1 コマ
 - 「博物館への招待」 日比野友亮 1 コマ
- ・岐阜大学
 - 「博物館展示論」 真鍋 徹 15 コマ (集中講義)
- ・九州国際大学
 - 「自然科学概論」 太田泰弘 15 コマ

2) 歴史課

- ・北九州市立大学
 - 「地域の文化と歴史」 守友 隆 1 コマ

(7) 団体・委員会への就任依頼

1) 自然史課

真鍋 徹

- ・福岡県環境影響評価専門委員（福岡県）
- ・広谷湿原保全方針検討委員会委員（福岡県）
- ・小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員（水資源機構）
- ・小石原川ダム環境保全対策検討委員会委員クマタカ検討部会委員（水資源機構）
- ・ナショナル・バイオリソース・プロジェクトにおける「情報発信体制の整備とプロジェクトの総合的推進」事業協力者（国立科学博物館）
- ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- ・日本景観生態学会監事（日本景観生態学会）
- ・日本景観生態学会編集委員（日本景観生態学会）

馬場 稔

- ・北九州市人と動物の共生社会推進懇話会委員（北九州市）
- ・周南市ツル保護協議会専門委員会委員（周南市）
- ・福岡県環境審議会委員（福岡県）
- ・大分県特別天然記念物カモシカ食害対策事業調査指導委員（大分県教育委員会）
- ・大分県天然記念物（動・植物）緊急調査指導委員（大分県）
- ・大分県文化財保護審議会委員（大分県教育委員会）

太田泰弘

- ・日本洞窟学会事務局長（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会評議員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会洞窟学雑誌編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本洞窟学会ケービングジャーナル編集委員（日本洞窟学会）
- ・日本地質学会古生物部会・世話人（日本地質学会）
- ・福岡県環境教育学会運営委員（福岡県環境教育学会）
- ・美祢市立博物館等将来構想検討委員会（美祢市教育委員会）

森 康

- ・日本鉱物科学会博物館委員会委員（日本鉱物学会）

御前明洋

- ・県の石出版プロジェクトチーム「福岡県の石」まとめ役（日本地質学会）

大橋智之

- ・日本古生物学会将来計画委員会委員（日本古生物学会）
- ・石川県白山市手取層群化石調査団員（白山市）

蓑島悠介

- ・「標本救済ネット」ケースワーカー（西日本自然史系博物館ネットワーク）
- ・自然史レガシー継承・発信実行委員会委員（自然史レガシー継承・発信実行委員会）
- ・日本甲虫学会庶務幹事（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会評議員（日本甲虫学会）
- ・日本甲虫学会和文誌編集委員（日本甲虫学会）

江頭幸士郎

- ・宇佐市オオサンショウウオ保護管理委員会（宇佐市教育委員会）
- ・日本爬虫両棲類学会英文誌編集委員（日本爬虫両棲類学会）
- ・九州両生爬虫類研究会運営委員（九州両生爬虫類研究会）

日比野友亮

- ・日本魚類学会編集委員（日本魚類学会）
- ・日本魚類学会若手の会会長（日本魚類学会）

中原 亨

- ・日本生態学会九州地区会福岡県委員（日本生態学会）
- ・日本鳥学会企画委員（日本鳥学会）

2) 歴史課

日比野利信

- ・福岡市総合図書館文書資料収集審査委員（福岡市教育委員会）
- ・九州史学研究会運営委員・編集委員・歴史資源部会長（九州史学研究会）

宮元香織

- ・佐賀県文化財保護審議会委員（佐賀県教育委員会）
- ・宗像市文化財保護審議会委員（宗像市教育委員会）

上野晶子

- ・戸畑祇園大山笠振興会 保存委員会委員

中西義昌

- ・日本建築学会九州支部歴史意匠委員（日本建築学会）

1 3. 博物館ボランティア組織の活動

(1) シーダー組織の活動

1) 人数 (平成30年4月1日現在)

- 登録人数 62名 [男性 25名 女性 37名]

10代 (1名)	20代 (2名)	30代 (1名)	40代 (0名)
50代 (6名)	60代 (23名)	70代 (23名)	80代 (6名)

2) 活動実績

- 延べ日数 355日
- 延べ活動回数 3,225回 (平均 52.0回/人)

3) 活動内容

[展示案内グループ]

来館者に対して館内の施設案内、常設展・特別展の展示解説、スポット解説を行う。

[講座補助グループ]

体験プログラムの補助、学芸員の普及講座の補助、子ども教室・東田サマースクールおよびMTが行う授業(環境アクティブ・ラーニング、昔の道具調べ)の補助を行う。

[演示グループ]

子ども向けの恐竜や生き物の「折り紙」、九州の民話を抜粋した「手作り紙芝居」などの読み聞かせ、お手玉・コマ回しなどの「昔あそび」、糸紡ぎから機織りまでを体験する「小倉織」などの実演を行う。

4) 研修

- およそ毎月1回の学芸員との「シーダーゼミ」を通して、シーダーとしての資質の向上に努めた。

実施日	人数	講 話 題	話者
第153回 5月23日(水)	31名	移り気な魚類学 ウナギ目研究からの来歴紹介 吉鳥?カササギ ~移入の歴史と新天地北海道での営み~	日比野友亮 中原 亨
第154回 6月28日(木)	22名	地震ぼけつとミュージアム	森 康
臨時 7月13日(金)	18名	特別展「へんてこモンスター」	御前明洋
第155回 7月24日(火)	27名	平尾台の今日この頃 吉田初三郎の鳥瞰図について	太田泰弘 日比野利信
第156回 8月28日(火)	29名	日本のカエデ類 埋蔵文化財と考古学	真鍋 徹 宮元香織
第157回 9月20日(水)	21名	博物館の昆虫 脊椎動物化石の肉食と植物食	蓑島悠介 大橋智之
第158回 10月26日(水)	23名	多様性館の爬虫類ケース 日本刀入門	江頭幸士郎 松井和幸
第159回 11月21日(木)	18名	担当した常設展示の小ネタ 小倉城ジオラマ「歴史ゾーン」の解説	馬場 稔 中西義昌
第160回 12月19日(水)	29名	異常巻アンモナイトの進化 足利尊氏書状—南北朝時代の北九州	御前明洋 守友 隆
第161回 1月24日(金)	18名	日本のウミヘビ属について、新種として発表された4種 小倉祇園について	日比野友亮 上野晶子
第162回 2月27日(水)	25名	猛禽類 当館寄託の藕糸織仏画について	中原 亨 富岡優子
第163回 3月20日(火)	16名	多様性館の両生類ケース 北九州博覧祭 2001 とセンタープラザ	江頭幸士郎 中西義昌

(2) 資料整理補助グループ

(2-1) 植物さく葉標本整理補助ボランティア

1) 登録人数 (平成30年4月1日現在)

6名

2) 活動実績

延べ日数 22日

整理標本点数 3,134点

3) 活動内容

植物さく葉標本の台紙への貼付および標本情報の転記補助等。

(2-2) 小倉織復元補助ボランティア

1) 登録人数 (平成30年4月1日現在)

16名

2) 活動実績

延べ日数 112日

製作数 反物 約5m×5点、約2m×1点

3) 活動内容

館蔵の小倉織資料をもとにデザインした小倉織を織るとともに、糸紡ぎなどの関連作業等。

平成30年12月24日から平成31年3月24日までは、歴史ぼけっとミュージアム No. 11において、小倉織の実演をおこなった。

1 4. 自然史友の会の活動

目 的

博物館とともに楽しく自然を研究し、正しく自然を理解し、自然史学の普及発展に寄与し、会員相互の親睦を図ることを目的とする（自然史友の会規約第2条）。

会員数

629名（平成31年3月31日現在）

役員等

会長：小林 繁、副会長：原田隆好・佐藤政弘、幹事長：新海義治、事業担当幹事11名、出版担当幹事9名、庶務会計担当幹事4名、会計監査2名、評議員45名、顧問14名

年会費

正会員：大人 3,000円、小・中・高生 1,000円、家族 4,000円。賛助会員：10,000円

活動内容

- (1) 会誌「わたしたちの自然史」の発行（B5版、総カラー24ページ）
第144号（9月10日発行）：「総会・研究発表会報告（講演要旨8件付き）」等5件の報告
第145号（11月10日発行）：「骨をみる」等5件の報告
第146号（1月25日発行）：「ツマグロヒョウモンの飼育と観察」等4件の報告
第147号（3月11日発行）：「福岡県福津市 津屋崎渡半島巡検」等5件の報告
特別号の発行：記録資料集植物編（1月31日発行）・化石編（3月1日発行）、自然史記録写真集（11月20日発行）
- (2) 研究部会の活動：例会の実施（計43回）
地質鉱物（第170～177回例会）、化石（第358～360回例会）、植物（第162～167回例会）、昆虫（10回の例会）、水生動物（活動再開・3回）、両生・爬虫類（第219～230回例会）、鳥類（第128回例会）
- (3) 友の会野外観察会の実施
9月23日（日）に畑貯水池（北九州市八幡西区）にて実施。参加者35名。
- (4) 博物館との共催の野外観察会の実施
野外観察会・夏休み教室を6回実施。
- (5) 市民向け室内講座の実施
「植物細密画を描いてみよう！」
第1回 7月8日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者25名。
第2回 10月28日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者10名。
- (6) 会員向け室内講座の実施
「水の中の小さな生きもの」
10月7日（日）13:00～16:30、博物館実習室にて。参加者12名。
- (7) 研究発表会の実施
4月29日（日）、博物館にて「マツカサウオの鱗の研究」等8件の発表。参加者40名。
- (8) 会議等の実施
総会（4月29日）、親睦会（4月29日）、評議員会（8月11日・3月24日）、三役・各担当幹事会代表会（2回）、出版担当幹事会（5回）、事業担当幹事会（3回）、庶務会計担当幹事会（1回）を実施。

15. 歴史友の会の活動

目的

本会は、考古学など歴史に関する学習を通じて自己啓発と会員相互の親睦を図り、古代史への理解と認識を高めるとともに、博物館への協力によって北九州地域の文化の向上に寄与することを目的とする（歴史友の会会則第2条）。

会員数

168名（平成31年3月31日現在）

役員等

会長：永尾正剛、顧問：野口委有、副会長：岩井勝治・渡辺善夫、会計：3名、会計監査：2名、会員管理：1名、講座運営：13名、遺跡見学運営：11名、広報・会誌編集：5名

年会費

正会員：5,000円 賛助会員：10,000円以上 臨時会員：実費（資料代）500円

活動内容（平成30年度）

- (1) 会誌「友の会だより」の発行（A4版、総カラー6ページ、年3回）
- (2) 講演会 年10回開催、参加者総計 1,227名

日時	講演タイトル	講師	人数
4月14日（土）	天下の名城だった小倉城	広島大学大学院文学研究科教授 三浦正幸 先生	178
5月19日（土）	朝鮮の鷹・馬からみた朝鮮通信使と武家社会	大阪歴史博物館学芸課長 大澤研一 先生	134
7月14日（土）	小倉祇園太鼓—その特徴と歴史—	別府大学文学部史学・文化財学科教授 段上達雄 先生	99
8月18日（土）	蒙古襲来	くまもと文学・歴史館館長 服部英雄 先生	129
9月8日（土）	世界遺産シリア・パルミラ遺跡	橿原考古学研究所技術アドバイザー 西藤清秀 先生	100
10月20日（土）	日本の食文化と和食の発達	国士舘大学教授 原田信男 先生	134
12月8日（土）	龍馬は寺田屋で襲われて良かった	京都国立博物館 宮川禎一 先生	125
1月19日（土）	装飾古墳の人類史	東京国立博物館 河野一隆 先生	125
2月9日（土）	北九州市内の戦争遺跡について	北九州市の文化財を守る会理事長 前菌廣幸 先生	106
3月9日（土）	遠賀堀川を再評価する	水巻町教育委員会 大坪 剛 先生	97

- (3) 史跡めぐり 年5回開催、参加者総計 145名

日時	場所	人数
5月26日（土）～5月27日（日）	柳井・岩国方面（岩国城、吉川史料館ほか）	31
6月17日（日）	熊本・山鹿方面（装飾古墳館、鍋田横穴群）	39
9月28日（日）～9月30日（日）	関西方面（三井寺、大津歴史博物館）	台風のため中止
11月11日（日）	八女方面（岩戸山古墳、いわいの郷）	44
2月17日（日）	若松・芦屋方面（芦屋釜の里、芦屋歴史資料館）	31

16. 資料の収集保存状況

(1) 自然史課

1) 平成30年度資料登録状況

平成30年度の自然史資料登録点数は以下のとおりである。

	29年度末累計	30年度登録数					30年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
生物系	81,117	141	0	1,183	19	1,343	82,460
地学系	38,279	14	161	4	7	186	38,465
合計	119,396	155	161	1,187	26	1,529	120,925

2) 平成30年度収集資料の概要

平成30年度に収集した主な資料は以下のとおりで、タイプ標本や論文に引用された標本などの学術的価値の高い標本も寄贈いただくことができた。また、採集による資料収集も実施した。

<寄贈資料>

- ・福岡県沿岸部に生息する甲殻類等の液浸標本（コンテナ11箱）
- ・世界の貝類標本（約1,300点）
- ・蛾類のホロタイプ標本（4点）およびパラタイプ標本（3点）
- ・国内外のチョウ類標本（ドイツ型標本箱約300箱）
- ・メガネカイマン剥製標本やタイマイ剥製標本などの爬虫類標本（4点）
- ・オオフウチョウ剥製標本やコウノトリ冷凍標本などの鳥類標本（39点）
- ・ココノオビアルマジロの加工品（1点）
- ・インド産ストロマトライト（1点）
- ・ブラジル産魚類化石および脇野亜層群産魚化石（2点）
- ・メソサウルス類化石（1点）
- ・ゾウ類の臼歯化石（1点）

<採集資料>

- ・インドネシア産フタバガキ科樹木の果実（5点）
- ・福岡県産昆虫標本（500点）
- ・北海道産昆虫標本（150点）
- ・衝突等によって死亡した鳥類の斃死体（7点）

<購入資料>

- ・オオサンショウウオ模型（1点）
- ・ムカシトカゲ生体模型（1点）
- ・ムカシトカゲ頭骨レプリカ（1点）
- ・ゴライアスガエル全身骨格レプリカ（1点）
- ・オウギワシ全身骨格レプリカ（1点）

(2) 歴史課

1) 平成 30 年度資料収集状況

平成 30 年度の歴史資料登録点数は以下のとおりである。

	29 年度末累計	30 年度登録数					30 年度末累計
		寄贈	寄託	購入	採集	小計	
歴史系	33,511	10	0	91	0	101	33,612
考古系	43,900	5,776	0	0	0	5,776	50,517
合計	77,411	5,786	0	91	0	5,877	84,129

2) 平成 30 年度収集資料の概要

寄贈は 6 件で総数 5,786 点、うち考古資料が 1 件で 5,776 点におよぶ。考古資料は福岡県立東筑高等学校が収集・所蔵していたものである。出土地が不明な資料が多いが、遠賀川下流の立屋敷遺跡（水巻町）から出土した壺型土器などよく知られた資料も含まれている。行政発掘調査制度が確立する以前には地元の高校によって遺跡の発掘調査やがおこなわれており、考古学の発展に寄与してきた。当館にはすでに福岡県立小倉高等学校、八幡高等学校の考古資料が寄贈されていることから、これらとあわせて調査・研究をさらに進めることで、地域の歴史の解明や企画展などにおける展示での活用が多いに期待できる。

そのほかの 5 件は近代の観光・交通・生活資料や農具などである。まとまったものではないが、昭和 10（1935）年の「門司鉄道局主催 全国周遊特別臨時列車案内」や、昭和 35（1960）年の小倉大博覧会に際して刊行された『北九州市 観光と産業』など北九州市の近代資料として大変興味深いものである。アース製菓の「かとり線香 アース渦巻」の**瑠璃看板**は昭和 46（1971）年から掲示されたものであり、テレビ CM が主流になる前の広告文化や昭和 40 年代後半＝1970 年代前半の暮らしの雰囲気を感じることができるものである。

購入は 2 件で総数 91 点、うち 90 点は庶民生活史研究家の堀切辰一氏による古布コレクション「襦袢」の追加分である。江戸時代から昭和前期の外着や普段着、仕事着に加え、布団表など生活衣料・資料であり、素材も木綿・麻・絹・羊毛・化学繊維など多様である。大半は実際に使用されたもので、使用痕や修理痕が見られ、いずれもコレクションのさらなる充実につながるものである。

もう 1 件は小倉藩の御用絵師の一人である村田応成が描いた「和布刈神社之図」である。村田応成（1816～77）は京都出身で円山応震に師事したが、小倉藩士で国学者の西田直養の知遇を得て小倉に転居した。村田応成の代表作に小倉藩領内の名所を描いた『豊国名所』（北九州市指定文化財、当館蔵）があるが、本作品はそのうちの「はやとも」とも関連する。小倉藩の御用絵師が江戸時代の終わり頃の市内の風景を描いた作品として貴重である。

今回は膨大な数を誇る考古資料の寄贈があつて、寄贈品数は例年になく多かつた。しかし整理途中の資料も少なくない。できるだけ早期に整理を行い、受入手続きを終了して保存と活用を図っていきたい。

17. 資料の特別観覧状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	目的	所属/団体名	閲覧者	人数	閲覧日
1	自然史	希少昆虫類	希少昆虫の情報収集	福岡県保健環境研究所	中島 淳	1	H30.4.12
2	自然史	北九州市産、宍岐産魚類化石標本	魚類化石の研究	北九州市立自然史・歴史博物館名誉館員	藪本美孝	1	H30.4.16-H31.3.31
3	自然史	蝶類標本	蝶類の研究		横地 隆	1	H30.9.15
4	自然史	ハムシ科昆虫（木元コレクション）	ハムシ科昆虫の研究	ホンザキグリーン財団	林 成多	1	H30.9.30-10.1
5	自然史	アリ類標本	寄贈予定のアリ類標本の整理		山根正気	1	H30.8.23-8.26, H30.10.8-10.11, H31.1.27-1.30
6	自然史	アンモナイト類	アンモナイト化石の分類に関する研究	立命館慶祥高校・三笠市立博物館	高橋慶多・石川真尚・三笠市立博物館	3	H31.1.23
7	歴史	「宗祇馬上図」	H30 年度特別展の事前調査	下関市立歴史博物館	岡松仁	1	H30.7.24
8	歴史	「秀政公年譜乾・坤」「小笠原家花押集全」「笠系大成附式・三」「小笠原秀政寄進状」「小笠原秀政法度」	H30 年度企画展の事前調査	長野県立歴史館	村石正行	1	H30.8.17
9	歴史	「小倉碑文 拓本」	展覧会出品依頼に掛かる事前調査	熊本県立美術館	山田貴司	1	H30.8.29

18. 資料の貸出状況（自然史・歴史）

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	スジゲンゴロウ標本（後脚）	2	中濱直之（東京大学総合文化研究所）	九州産スジゲンゴロウの系統解明	H30.4.20～ H31.3.31
2	自然史	マルスジゲンゴロウ属標本（15点）およびツブゲンゴロウ属標本（36点）	51	渡部晃平（石川県ふれあい昆虫館）	ツブゲンゴロウ属およびマルスジゲンゴロウ属の分類学的研究	H30.5.9～ H31.4.8
3	自然史	プロトブテルム類全身復元骨格（1点）およびコベプタリクス産状レプリカ（1点）	2	長崎ペンギン水族館	特別展「太古のペンギン展～ペンギンは大きかった」での展示	H30.6.15～
4	自然史	<i>Poritia personata</i> , <i>Deramas masae</i> , <i>D. nanae</i> 標本：各1点	3	矢後勝也（東京大学総合研究博物館）	研究	H30.6.24～ H30.10.30
5	自然史	メガネウラ復元模型	1	国立科学博物館	特別展「昆虫」での展示	H30.7.6～ H30.9.25
6	自然史	マンモス牙	1	福岡市科学館	特別展「スケスケ展」での展示	H30.8.1～ H30.8.31
7	自然史	三葉虫化石（ファコプス・ラエヌス）標本	2	北九州市立児童文化科学館	普及講座（レプリカづくり）での使用	H30.9.13～ H31.3.31
8	自然史	鉄鉱石、石炭、石灰石：各1点	3	北九州イノベーションギャラリー	展示会「明治日本の産業革命遺産」関連コーナーでの展示	H30.9.14～ H31.3.31
9	自然史	鉄鉱石、石灰岩：各1点	2	明治日本の産業革命遺産福岡県世界遺産連絡会議	企画展「明治日本の断崖革命遺産」での展示	H30.10.1～ H31.1.15
10	自然史	ビルマニシキヘビ全身骨格、ビルマニシキヘビ頭骨、マングローブヘビ剥製、アミメニシキヘビ剥製、メガネカイマン剥製、イリエワニ剥製、アカブルコレッドニー（タランチュラ）生体、ブラジリアンファイアレッド（タランチュラ）生体（各1点）、マタマタ生体：各1点	9	海の中道海洋生態科学館	特別展「アニマルオールスターズ」での展示	H30.10.10～ H31.9.30
11	自然史	キュウシュウヒメコブハナカミキリ標本	4	藤田宏（むし社）	カミキリムシ科の研究	H30.12.15～ H31.4.7
12	自然史	メネラウスモルフォ	1	アクア・トトぎふ	企画展「イロトリドリの生き物たち」での展示	H31.3.20～ R2.3.19
13	自然史	宗像市産哺乳類化石標本（コリフォドン）	14	宮田和周（福井県立恐竜博物館）	新生代における絶滅哺乳類相の研究	H31.3.20～ R2.3.19

14	自然史	ガムシ科幼虫標本	12	VALERIA GEORGIN RODRIGUEZ (ブ エノスアイレス大学大学院)	ガムシ科昆虫の分類・形態学的 研究	研究用に提供 (寄贈)
15	歴史	「銅製経筒」3点、「西国内海名所一覧」「豊 国名所」(市指定文化財)、「西光寺梵鐘」(寄 託)、「慈濟寺銅製鰐口」(寄託)各1点	7	北九州市立小倉城庭園	企画展「謎多き職人集団の足跡 をたどる〜小倉鋳物師と芦屋 鋳物師〜」に出品。	H30. 4. 12〜 H30. 6. 30
16	歴史	「密貿易船打払図」「小倉領藍島略図」各 1点	2	九州歴史資料館	企画展「幕末の城-近世の沿岸 警備と幕末期城郭-」に出品。	H30. 6. 1〜 H30. 8. 31
17	歴史	「藕糸織阿弥陀聖衆来迎図」「藕糸織靈山 浄土図」「藕糸織阿弥陀三尊来迎図」(寄託)	3	福岡市博物館	同館特別展「浄土九州-九州の 浄土教美術-」に出品。	H30. 8. 20〜 H30. 11. 15
18	歴史	「門司検疫所彦島措置場資料」32点	32	厚生労働省福岡検疫所	「検疫記念日 Port of MOJI 2018」の「検疫の歴史」展に出 品。	H30. 7. 12〜 H30. 7. 17
19	歴史	「松平美濃守」本陣関札」1点	1	古賀市歴史資料館	企画展、常設展に出品。	H30. 8. 19〜 H30. 8. 31
20	歴史	愛宕遺跡出土資料 4点	4	北九州市立小倉城庭園	企画展「武将のたしなみ〜利 休・三斎・織部とつながる松井 家の茶の湯〜」に出品。	H30. 9. 16〜 H30. 11. 18
21	歴史	南河内橋設計図 No. 1・No. 9	2	「明治日本の産業革命遺産」福岡 県世界遺産連絡会議	「明治日本の産業革命遺産」企 画展1「鉄都・八幡」に出品。	H30. 9. 14〜 H30. 10. 12
22	歴史	「小倉碑文拓本」1幅	1	熊本県立美術館	細川コレクション特集「武蔵、 熊本にきたる！」展に出品。	H30. 9. 20〜 H30. 12. 28
23	歴史	「門司氏系図」(「門司文書」第5)、「宗祇 馬上図」	2	下関市立歴史博物館	特別展「大内氏と毛利氏の隆盛 -海峡の戦国史第1章-」に出品。	H30. 9. 24〜 H30. 12. 28
24	歴史	「銅矛」(重留遺跡)及び同復元品、写真 資料	3	宗像市教育委員会	海の道むなかた館特別展「宗像 教授帰省録-漫画×考古学-」に 出品。	H30. 12. 28〜 H31. 2. 17

19. 画像等資料の貸出状況 (自然史・歴史)

	担当課	資料名	点数	貸出先	使用目的	申請日
1	自然史	吉母(下関市)産恐竜足跡化石画像	1	島根県立三瓶自然館	特別展「RECORD-化石が語る山陰山 陽三億年-」での使用	H30. 4. 25
2	自然史	ディプロミスチス画像	1	啓林館	小学校理科教科書への掲載(継続利 用申請)	H30. 6. 1
3	自然史	スピノサウルス全身復元骨格画像	1	毎日新聞社	毎日小学生新聞への掲載	H30. 6. 4
4	自然史	ティラノサウルス画像、エオラプトル画 像、クリオロフォサウルス画像、ディノ ニクス画像、プテラノドン画像:各1 点	5	学研プラス	「新版恐竜の世界 DVD付」への掲 載	H30. 6. 29
5	自然史	ニッポンアミア・サトウイ模式標本画 像、ハポロティウス・ボセイドン復元画 像:各1点	2	ユニバーサル・パブリッシング	学研プラス刊「日本列島5億年の秘 密がわかる本」への掲載	H30. 8. 7
6	自然史	ネオケラトプス類歯化石画像、アドク ス・センゴクエンシス化石画像、ハポロ テウスティス復元イラスト、ハポロテウ スティス下顎化石画像、プラビトセラ ス化石画像:各1点	5	ハユマ	PHP 研究社刊「日本の恐竜大研究」 への掲載	H30. 8. 24
7	自然史	スピノサウルス全身復元骨格画像	1	NHK エンタープライズ制作本部	NHK スペシャルの制作にあたり、ス ピノサウルスのモデル制作の参考 画像として利用	H30. 8. 30
8	自然史	ダンクルオステウス頭骨画像	1	スタジオ・ジップ	洋泉社刊「大人のための入門古生物 と古代生物」への掲載	H30. 9. 20
9	自然史	アミメキリン剥製画像、アミメキリン全 身骨格画像、フタコブラクダ剥製画像、 アンプロケタス全身骨格レプリカ画像、 ヘリコプリオン歯画像、ホホジロザメ剥 製画像、ジイベエザメ剥製画像、ウバザ メ剥製画像、ミクロラプトル復元模型画 像、博物館外観画像:各1点	10	ブックマン社	「ならべてくらべる動物進化図鑑」 への掲載	H30. 10

10	自然史	ムラサキトビケラ標本写真	1	倉西良一（千葉県立中央博物館）	論文への引用	H30. 10. 12
11	自然史	イノシシ剥製標本画像	1	北九州港振興協会	先方のマスコットキャラクター（スナQ）とイノシシ（来年度の干支）と一緒に写った年賀状を作成し広報活動に利用	H30. 11. 29
12	自然史	プロトプテルム産状化石レプリカ画像、ヤマトケタス全身骨格レプリカ画像：各1点	2	ハユマ	PHP 研究所刊「日本の古生物大研究」への掲載	H30. 12. 5
13	自然史	ディプロミスタス・プリモティヌスのホロタイプ画像、山田弾薬庫跡付近の脇野亜層群魚類化石包含層の露頭画像：各1点	2	日本古生物学会	古生物学会和文誌（化石）105号への掲載	H319. 1. 13
14	自然史	宗像市産コリフォドン科化石のレプリカ画像	1	新修宗像市史編集委員会	刊行物「新修宗像市史 うみやまかわ（自然編）」の挿図	H31. 2. 1
15	自然史	ステゴサウルス画像、ティラノサウルスとトリケラトプス画像：各1点	2	KADOKAWA ビジネス・生活文化局	学習参考書「カリスマ講師の日本一成績が上がる魔法の地学基礎ノート」への掲載	H31. 2. 19
16	自然史	恐竜の卵化石画像	1	啓林館	中学校理科教科書及び教科書に関連する媒体（教師用指導書など）への掲載	H31. 3. 11
17	歴史	「小笠原忠真（忠政）画像」	1	神戸新聞社（明石総局）	紙面連載記事に掲載するため。	H30. 4. 26
18	歴史	小笠原忠真所用 碁石威伊予札萌黄色威段替丸胴具足	1	一般社団法人明石観光協会	小笠原忠真モデルの甲冑の設計やデザインの作製資料として写真データを使用。	H30. 6. 2
19	歴史	「小笠原忠真画像」	1	一般社団法人明石観光協会	明石城築城400年2019 広告のため	H30. 7. 11
20	歴史	「豊国名所」ぎをん踊	1	RKB毎日放送	テレビ番組制作のため	H30. 7. 13
21	歴史	「島村志津摩所用采配」	1	I V S テレビ制作株式会社	テレビ番組制作のため	H30. 7. 31
22	歴史	「小笠原忠真画像」	1	攻城団合同会社	明石城完全攻城ガイドブックへの掲載	H30. 7. 31
23	歴史	「小笠原忠真画像」	1	株式会社明石ケーブルテレビ	明石城築城400年PR 用動画コンテンツ制作のため	H30. 9. 14
24	歴史	「琳聖太子像」	1	下関市立歴史博物館	特別展「発掘された明石の歴史大内氏の興亡と毛利氏の隆盛」印刷物等の媒体で使用。	H30. 9. 14
25	歴史	「小笠原忠真画像」	1	NHK福岡放送局	ニュース番組内の画像使用。	H30. 9. 25
26	歴史	「小笠原忠真敷絵図」	1	幸文堂出版	機関誌『美夜古文化』に掲載するため。	H30. 10. 26
27	歴史	「小笠原忠真画像」	1	一般社団法人明石観光協会	テレビ番組制作のため	H30. 12. 18
28	歴史	「天正十八年四月 豊臣秀吉禁制」「文禄四年五月十七日 小笠原秀政書状」	2	長野県立歴史館	同館研究紀要論文への掲載使用。	H31. 1. 17
29	歴史	「小笠原忠真画像」	1	一般社団法人明石観光協会	明石城PR 動画制作のため	H31. 1. 31
30	歴史	「小笠原忠真画像」「小笠原忠真所用具足」	2	株式会社PHP 研究所	『歴史街道』2019年4月号掲載のため	H31. 2. 5
31	歴史	「小笠原忠真画像」	1	一般社団法人明石観光協会	テレビ番組制作のため	H31. 2. 19
32	歴史	「小笠原忠真画像」	1	静岡放送	テレビ番組制作のため	H31. 3. 18

20. 研究業績

(1) 普及課

1) 論文など

上田恭一郎. 2018. 博物館が昆虫学にはたしてきた役割. 昆虫 (ニューシリーズ), 21 (1), 59–69.

蓑島悠介・下村通誉・真鍋 徹・上田恭一郎. 2018. 実物資料に内包された知覚効果を引き出す展示手法の開発 ～昆虫の多様性の知覚化に向けて. 全科協ニュース, 48 (4), 4–5.

Vršanský, P., Bechly, G., Zhang, Q., Jarzembowski, E.A., Mlynský, T., Šmídová, L., Barna, P., Kúdela, M., Aristov, D., Bigalk, S., Krogmann, L., Li, L., Zhang, Q., Zhang, H., Ellenberger, S., Müller, P., Gröhn, C., Xia, F., Ueda, K., Vd'ačný, P., Valáška, D., Vršanská, L., and Wang, B. 2018. Batesian insect-insect mimicry-related explosive radiation of ancient alienopterid cockroaches. *Biologia*, 73 (10), 987–1006.

2) 書籍・普及書など

なし

3) 学会等講演

なし

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

基盤研究 (B) . 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者: 上田恭一郎. 研究分担者: 真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介・江頭幸士郎. 2017–2020 年度.

【その他の補助金】

なし

(2) 自然史課

1) 論文など

真鍋 徹. 2019. 孫億・山口宗季 (呉師虔) ・沈南蘋 (沈銓) の花鳥図に描かれた植物. 九州国立博物館紀要「東風西声」, 14, 31–42.

行川修平・中野春男・村田裕・真鍋 徹. 2018. ダム事業に伴う絶滅危惧種マルバノホロシの保全対策. 景観生態学, 23, 17–23.

Takaoka, H., Saito, K., Ader, P. H. and Baba, M. 2018. A new species of black fly with a yellow thorax in the genus *Prosimulium* (Diptera: Simuliidae) in Japan. *Zootaxa* 4524, 489–495.

今岡照喜・森康・楳原京子・永寫真理子. 2019. 中世の滑石石鍋分類の新たな指標: 熱重量・示差熱分析と H₂O 含有量. 山口大学教育学部研究論叢, 68, 39–45.

Tanabe, K., Misaki, A., Ikeda, T., Izukura, M. and Moriya, K. Taxonomic relationships and paleoecological significance of two exceptionally large lower jaws of Late Cretaceous ammonoids from Japan. *Paleontological Research*. (in press)

杉野広利・太田泰弘・原賀いずみ・花田秀揮・高橋俊吾・大橋直子・森三保・加藤久美子・八百屋さやか・大澤得二・白川正樹・浦田健作・森ふさ恵・富永重稔・葉山彰・船井泰乃・宮田薫. 2019. 活動実績 2 : 活動と博物館への協力. ジオ&バイオ研究会報告書, ジオ&バイオ研究会. 8, 5–46.

大橋智之・宮元香織・上野晶子. 2019. 常設展示での幼児教育: こどもミュージアムに関する事例紹介. 全

科協ニュース. 49 (1), 8–9.

- Minoshima, Y. N., Seidel, M., Wood, J. R., Leschen, R. A. B., Gunter, N. and Fikáček, M. 2018. Morphology and biology of the flower-visiting water scavenger beetle genus *Rygmodes* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Entomological Science*, 21 (4), 363–384.
- Minoshima, Y. N. 2018. Larval morphology of *Armostus ohyamatensis* Hoshina and Satô (Coleoptera: Hydrophilidae: Megasternini). *The Coleopterists Bulletin*, 72 (4), 767–778.
- Fikáček, M., Minoshima, Y. N. and Jäch, M. A. 2018. Larval morphology of *Yateberosus*, a New Caledonian endemic subgenus of *Laccobius* (Coleoptera: Hydrophilidae), with notes on parallel evolution of ‘*Berosus*-like’ larval morphology in Hydrophiloidea. *Acta Entomologica Musei Nationalis Pragae*, 58 (1), 195–206.
- Seidel, M., Minoshima, Y. N., Arriaga-Varela, E. and Fikáček, M. 2018. Breaking a disjunct distribution: a review of the Southern Hemisphere genera *Cylorygmus* and *Relictorygmus* gen. nov. (Hydrophilidae: Cylominae). *Annales Zoologici*, 68 (2), 375–402.
- 蓑島悠介・下村通誉・真鍋 徹・上田恭一郎. 2018. 実物資料に内包された知覚効果を引き出す展示手法の開発 ～昆虫の多様性の知覚化に向けて. *全科協ニュース*, 48 (4), 4–5.
- Nakano, T., Eto, K., Nishikawa, K., Hossman, M. Y., and Jeratthitikul, E. 2018. Systematic revision of the Southeast Asian macrophagous leeches, with the description of two new gastrostomobdellid species (Hirudinida: Arhynchobdellida: Erpobdelliformes). *Zoological Journal of the Linnean Society*, 184, 1–30.
- Eto, K., Matsui, M., Hamidy, A., Munir, M., and Iskandar, D. 2018. Two new species of the genus *Leptobrachella* (Amphibia: Anura: Megophryidae) from Kalimantan, Indonesia. *Current Herpetology*, 37, 95–105.
- Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y., and Tominaga, A. 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38, 32–90.
- 田和篤史・田原義太慶・日比野友亮. 2018. 沖縄県西表島から得られた日本初記録のウミヘビ科魚類マダラシマウミヘビ (新称) *Myrichthys paleracio*. *魚類学雑誌*, 65 (1), 41–47.
- Ho, H.-C., Smith, D. G., Tighe, K. A., Hibino, Y. and McCosker, J. E. 2018. Checklist of eels of Taiwan (orders Anguilliformes and Saccopharyngiformes): An update. *Zootaxa*, 4554, 5–17.
- Smith, D. G., Hibino, Y. and Ho, H.-C. 2018. Two new elongate unpatterned moray eels from Taiwan and Vietnam, with notes on two congeners (Anguilliformes: Muraenidae). *Zootaxa*, 4454, 33–42.
- Ho, H.-C., Hibino, Y. and Huang, J.-F. 2018. Note on rare snake eels (Anguilliformes: Ophichthidae) and additional data on three *Neenchelys* recently described from Taiwan. *Zootaxa*, 4554, 200–214.
- Hibino, Y. and Tabata, R. 2018. Description of a new catfish, *Silurus tomodai* (Siluriformes: Siluridae) from central Japan. *Zootaxa*, 4459, 507–524.
- Hibino, Y. 2018. A new species of *Apterichthys* (Actinopterygii: Anguilliformes: Ophichthidae) from Tori-shima island, southern Japan with notes on characters of supraorbital canal. *Species Diversity*, 23, 219–223.
- 日比野友亮. 2018. 図書紹介 はじめての魚類学. *魚類学雑誌*, 65 (2), 218.
- Hibino, Y., McCosker, J.E. and Tashiro, F. 2019. Four new deepwater *Ophichthus* (Anguilliformes: Ophichthidae) from Japan with a redescription of *Ophichthus pallens* (Richardson 1848). *Ichthyological Research*. DOI: 10.1007/s10228-018-00677-3.
- 日比野友亮. 2019. マブナとヘラブナ、どっちがうまいか：各地での味感覚. *魚類自然史研究会会報「ボテジャコ」*, 23, 47–52.
- 日比野友亮・田口智也・岩田一夫・古橋龍星. 2019. 宮崎県大淀川水系から得られたコウライオヤニラミ. *Nature of Kagoshima*. Published online.
- Nakahara, T., Fukano, Y. & Yahara, T. 2018. Effects of apical damage on plant growth and male and female reproductive investments in *Ambrosia artemisiifolia*, a wind-pollinated plant. *Plant Ecology*, 219, 853–862.

2) 書籍・普及書など

- 江頭幸士郎. 2019. 地域で変わるタゴガエルの鳴き声—五島列島を例に—. 九州両生爬虫類研究会 (編), 九州・奄美・沖縄の両生爬虫類. pp. 60–61. 東海大学出版部.
- 江頭幸士郎. 2019. ヤクシマタゴガエル—世界遺産の島で生きる—. 九州両生爬虫類研究会 (編), 九州・奄美・沖縄の両生爬虫類. pp. 64–65. 東海大学出版部.
- 日比野友亮. 2018. ヘビのような魚. p. 233. 日本魚類学会 (編), 魚類学の百科事典. 丸善.
- Hibino, Y. 2018. Muraenidae, Synaphobranchidae, Ophichthidae, Congridae, and Muraesocidae. In: Kimura, S., Imamura, H., Nguyen, V.Q. and Ha, P.H. (eds.) *Fishes of Ha Long Bay, the natural world heritage site in northern Vietnam*. pp. 18–32. Fisheries Research Laboratory, Mie University.
- 日比野友亮. ヌタウナギ科, ウナギ目各科. 本村浩之・萩原清司・瀬能宏・中江雅典 (編), 奄美群島の魚類図鑑. pp. 11, 21–29. 南日本新聞開発センター.
- Kikuchi, D. M., Nakahara, T., Kitamura, W. & Yamaguchi, N. M. Estimating potential costs of cumulative barrier effects on migrating raptors: a case study using global positioning system tracking in Japan. In: Bispo, R., Bernardino, J., Coelho, H. and Costa, J. L. (eds.) *Wind energy and wildlife impacts: balancing energy sustainability with wildlife conservation*. pp. 51–65. Springer.
- 中原 亨. 2018. 営巣戦略. 江口和洋・高木昌興 (編著), 「鳥類の生活史と環境適応」第5章. pp. 79–98. 北海道大学出版会.

3) 学会等講演

- 坂倉真衣・真鍋 徹. 2019. 博物館での「出会い (encountering) は日常生活の中でどのように形を変えていくか—来館者の博物館体験を理解する試み—. 日本質的心理学会. 名桜大学 (名護市).
- Mori, Y., Shigeno, M. and Nishiyama, T. 2018. Mixing and reaction of rocks facilitate fluid flow along the forearc slab-mantle interface. JpGU Meeting 2018. Makuhari Messe.
- Noro, K., Ujiie, K., Nishiyama, N., Mori, Y. and Masuyama, H. 2018. Metasomatic reaction and localization of low-angle thrust-sense viscous shear recorded in subduction mélanges exhumed from source depths of slow earthquakes. JpGU Meeting 2018. Makuhari Messe.
- Hasenaka, T., Shiihara, K., Yasuda, A., Hokanishi, N. and Mori, Y. 2018. Pre-eruptive magmatic processes leading to Aso-4 caldera-forming eruption. JpGU Meeting 2018. Makuhari Messe.
- Togawa, S., Hasenaka, T., Torii, M. and Mori, Y. 2018. Geology and petrography of the pre-Aso volcanic rocks distributed in Tateno area, Minami-Aso village, Kyushu. JpGU Meeting 2018. Makuhari Messe.
- Mori, Y., Shigeno, M., Noro, K., Nishiyama, N., Masuyama, H., Ujiie, K. and Nishiyama, T. 2018. Metasomatic dehydration of serpentinite in subduction mélanges. International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018. ACROS Fukuoka.
- Ujiie, K., Saishu, H., Noro, K., Masuyama, H., Nishiyama, N., Mori, Y., Fagereng, A. and Tulley, C. 2018. Geological perspectives of tectonic tremor and slow slip: Insights from subduction mélanges. International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018. ACROS Fukuoka.
- Noro, K., Ujiie, K., Nishiyama, N., Mori, Y. and Masuyama, H. 2018. Fluid-rock interaction in subducted mélanges and its implications for fluid flow along the subduction plate boundary. International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2018. ACROS Fukuoka.
- 森 康・重野未来・西山忠男. 2018. 沈み込みメランジュにおける蛇紋岩の脱水交代作用: 深部スロー地震との関連. 日本地質学会第125年学術大会 (札幌大会). 北海道大学.
- 重野未来・森 康・宮崎一博・西山忠男. 2018. 炭質物ラマン地質温度計で推定した西彼杵変成岩類の変成温度構造. 日本地質学会第125年学術大会 (札幌大会). 北海道大学.

- 宮崎一博・菅賢志・森 康・重野未来・岩野英樹・檀原徹・八木公史・大林秀行・西山忠男・平田岳史. 2018. 高圧型変成作用の継続時間と速度定数:長崎変成コンプレックス西彼杵ユニットの例. 日本地質学会第 125 年学術大会 (つくば大会). 産業技術総合研究所.
- 野呂和也・氏家恒太郎・西山直毅・森 康・増山春菜. 2018. 沈み込みプレート境界域における交代作用と延性剪断. 日本地質学会第 125 年学術大会 (つくば大会). 産業技術総合研究所.
- 三宅優佳・堤 之恭・御前明洋・ルグラン ジュリアン・對比地孝亘・小松俊文. 2018. 鹿児島県甌島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の地質年代. 日本古生物学会 2018 年年会. 東北大学.
- 太田泰弘. 2018. 北九州の ジオパーク活動における歴史気象学と伝説の活用 について. 日本地質学会第 125 年学術大会 (つくば大会). 産業技術総合研究所.
- 太田泰弘・牧野帆乃香. 2018. カナダ・ブリティッシュコロンビア州 Cache Creek 近郊のペルム系 Marble Canyon limestone 産フズリナ類の多様性の減少と多産する Hemigordiopsidae について. 日本地質学会第 125 年学術大会 (つくば大会). 産業技術総合研究所.
- 柿崎喜宏・狩野彰宏・中田亮一・永石一弥・太田泰弘・柏木健司. 2018. 新潟県青海石灰岩 (下部ペルム系 Artinskian) の中からみいだされた洞窟充填リズマイト. 日本地質学会第 125 年学術大会 (つくば大会). 産業技術総合研究所.
- 浦野雪峰・杉本泰伸・田上 響・松本涼子・河辺壮一郎・大橋智之・藤原慎一. 2019. トリのクチバシ角質部の層構造から予想するクチバシの成長様式. 日本古生物学会 2018 年年会. 東北大学.
- 田上 響・大橋智之・浦野雪峰・河部壮一郎・藤原慎一・松本涼子. 2019. 漸進統杵島層群産骨質歯鳥類の下顎における嘴鞘の部分的分布. 日本地質学会西日本支部第 170 回例会. 長崎大学.
- 藁島悠介. 2018. 日本産ヒラタガムシ属の問題児. 日本甲虫学会第 9 回大会. 栃木県立博物館.
- 藁島悠介, Seidel, M., Wood, J. R., Leschen, R. A. B., Gunter, N. and Fikáček, M. 2018. ニュージーランドの訪花性ガムシ科 *Rygmodes* 属の形態と生態 (鞘翅目). 日本昆虫学会第 78 回大会. 名城大学.
- 江頭幸士郎・松井正文・木下豪太. 2018. RAD-seq 解析で明らかになったタゴガエル種群の遺伝的多様性. 日本爬虫両棲類学会第 57 回神奈川大会. 麻布大学.
- 生野賢司・田中 颯・瀬尾絵理子・日比野友亮. 2018. 布告書 45 による国際動物命名規約の改正とその背景: いわゆるタイプ標本なしの種や亜種の設立をめぐる. 日本動物分類学会第 54 回大会. 鹿児島大学.
- 望岡典隆・日比野友亮・稲田善和・桐生 透・柵瀬信夫・内田和男・大越徹夫. 2018. 全国 18 箇所の内水面に設置された石倉カゴのモニタリング. 公開シンポジウム「うな井の未来 VI 世界の中のニホンウナギ」. 東京大学.
- 日比野友亮・中島 淳・岩崎朝生・望岡典隆・栗田喜久・鬼倉徳雄. 2018. 塚原博博士の魚類コレクションに含まれる福岡県柳河産淡水魚標本群と現在の魚類相(予報). 2018 年度日本魚類学会年会 (50 周年記念大会). 国立オリンピック記念青少年総合センター.
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・望岡典隆. 2018. 河川におけるニホンウナギの夜間の行動生態. 2018 年度日本魚類学会年会 (50 周年記念大会). 国立オリンピック記念青少年総合センター.
- 日比野友亮. 2019. ウナギ石倉は分布の端部で特殊化する?. 第 30 回魚類生態研究会. 水産大学校.
- 日比野友亮. 2019. 宮崎県大淀川水系へのオヤニラミ属 2 種の侵入. 第 46 回四国魚類研究会. 月が谷温泉.
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・望岡典隆. 2019. ウナギは滝を登るのか?. 第 46 回四国魚類研究会. 月が谷温泉.
- 望岡典隆・日比野友亮・稲田善和・桐生 透・柵瀬信夫・酒井恭平・内田和男. 2019. 石倉カゴの効果検証 1: 全国 23 箇所の内水面に設置された石倉カゴのモニタリング. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学.
- 松重一輝・日比野友亮・安武由矢・望岡典隆. 2019. 石倉カゴの効果検証 3: 事前調査を踏まえたニホンウナギの分布への影響評価. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学.

- 日比野友亮・高木基裕・清水孝昭・成田公義・武智昭彦・松重一輝・安武由矢・望岡典隆・内田和男. 2019. 石倉カゴの効果検証 2: モニタリングで採捕されたニホンウナギの再捕獲傾向. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学.
- 安武由矢・日比野友亮・松重一輝・酒井恭平・内田和男・望岡典隆. 2019. 石倉カゴの効果検証 4: モニタリング用採集具としての石倉カゴ. 平成 31 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学.
- 中原 亨・菊地デイル万次郎・北村 亘・山口典之. 2018. 風力発電施設の存在が渡り鳥に与える影響: 累積的な障壁効果をもたらす潜在的コストの推定. 動物・植物・生態三学会合同福岡例会. 九州大学.
- 中原 亨・菊地デイル万次郎・北村 亘・山口典之. 2018. 風力発電施設の存在が渡り鳥に与える影響: 累積的な障壁効果をもたらす潜在的コストの推定. 動物・植物・生態三学会合同長崎例会. 長崎大学.
- 中原 亨. 2018. 研究をどう位置づけるか. 自由集会「研究対象としての”鳥類”を考える」. 日本鳥学会 2018 年度大会. 新潟大学.

4) 外部資金獲得状況

【文部科学省科学研究費助成事業科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金】

- 基盤研究 (B) . 実物資料を活用した自然史の新たな展示手法および展示理論の構築. 研究代表者: 上田 恭一郎. 研究分担者: 真鍋 徹・下村通誉・御前明洋・大橋智之・蓑島悠介・江頭幸士郎. 2017-2020 年度.
- 新学術領域研究. スロー地震の地質学的描像と摩擦・水理特性の解明. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 氏家恒太郎) . 2016-2020 年度.
- 基盤研究 (A) . 本邦初産超高压クロミタイトとマイクロダイヤモンド. 研究分担者: 森 康. 連携研究者: 重野未来^{*1} (研究代表者: 西山忠男) . 2016-2019 年度.
- 基盤研究 (B) . 沈み込むスラブからマントルウェッジへの水流体の化学組成の変化. 研究分担者: 森 康・重野未来^{*1} (研究代表者: 川本竜彦) . 2016-2018 年度.
- 基盤研究 (C) . 新たな変成反応進行過程の提案と反応継続時間の推定. 研究分担者: 森 康・重野未来^{*1} (研究代表者: 宮崎一博) . 2016-2019 年度.
- 基盤研究 (C) . ヒスイ輝石岩に包有されたスラブ起源流体の塩濃度. 研究分担者: 森 康 (研究代表者: 重野未来^{*1}) . 2016-2018 年度.
- 基盤研究 (C) . 比較解剖学的・組織学的手法による古生物の嘴の復元. 研究分担者: 大橋智之 (研究代表者: 田上響) . 2018-2021 年度.
- 基盤研究 (C) 被災館と海外の館を繋ぐ携帯情報端末を使用した参加型成長連携ミュージアムの支援. 研究分担者: 籾本美孝^{*2} (研究代表者: 伏見清香) . 2016-2018 年度.
- 若手研究 (B) 昆虫の陸上進出に伴う形態進化パターンの解明. 研究代表者: 蓑島悠介. 2017-2019 年度.
- 国際共同研究加速基金 (B) ヒキガエル利用からホタル利用へ: 毒源を変化させたヘビ類の進化過程の探求. 研究分担者: 江頭幸士郎 (研究代表者: 森哲) . 2018-2022 年度.

^{*1}: 受託研究員、^{*2}: 名誉館員

【その他の補助金】

なし

(3) 歴史課

1) 論文・著書など

- 日比野利信. 2018. 「福岡市の都市発展と博多湾・箱崎」. 九州史学研究会編『アジアのなかの博多湾と箱崎』(アジア遊学 224) .
- 日比野利信. 2019. 「安川敬一郎の福岡(藩)人脈と福岡市政」. 平成 28~30 年度科学研究費(基盤研究(C)). 代表者日比野利信) 研究成果報告書『近代日本における企業家のネットワーク形成—地方

財閥の人脈に関する総合的研究一』

宮元香織. 2019. 「元岡・桑原遺跡群における横穴式石室の構造について」. 『元岡・桑原遺跡群 33』. 福岡市教育委員会, pp.89-92.

宮元香織 編. 2019. 『大里八反田遺跡第 2・3 地点』. (北九州市文化財調査報告書第 159 集). 北九州市教育委員会.

大橋有佳・富岡優子・志賀智史・木川りか・松井和幸・立野康志郎. 2019. 「藕糸織仏画の科学調査」『北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告』B 類歴史 第 16 号. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp.1-14.

守友 隆 編. 2018. 『最後の戦国武将 小倉藩主 小笠原忠真』. 北九州市立自然史・歴史博物館.

守友 隆. 2018. 「京都平野を治めた近世大名たち」『西日本文化』488 号. 西日本文化協会, pp.44-47.

守友 隆. 2019. 「対馬宗家関係史料「風聞帳」の紹介」. 『北九州市立自然史・歴史博物館研究報告』B 類歴史第 16 号. 北九州市立自然史・歴史博物館, pp.78(1)-16(63).

中西義昌. 2018. 「縄張り研究の独自性と今後の展望 - いわゆる「杉山城問題」によせて - 」. 城館史料学会編『城館史料学』第 10 号, pp.69-144.

中西義昌. 2018. 「筑前国御牧郡帆柱連山の戦国期山城」. 北部九州中・近世城郭研究会編『北部九州中近世城郭』第 34 号, pp.1-8.

(2) 学会等講演

中西義昌. 2018. 「山地・里山の歴史的景観の復元～中・近世の筑前国遠賀郡帆柱山を題材に～」. 日本景観生態学会第 28 回全国大会宮崎大会講演要旨集, p.22.

(3) 外部資金取得状況

【科学研究費補助金】

基盤研究 (C) . 近代日本における企業家のネットワーク形成—地方財閥の人脈に関する総合的研究一. 研究代表者: 日比野利信. 2016-2018 年度.

基盤研究 (B) . 服飾からみる近代日本の形成—ハイカラと上品. 研究分担者: 日比野利信 (研究代表者: 乾 淑子) . 2017-2019 年度.

若手研究 (B) . 近世後期・幕末維新时期日朝間における海外事件情報流通の研究—対馬藩宗家史料を中心に. 研究代表者: 守友 隆. 2015-2018 年度.

若手研究 (B) . 幕末における海外文化の収集活動と翻訳について. 研究代表者: 上野晶子. 2013-2019 年度.

若手研究 (B) . 九州を中心とする仏涅槃図の基礎的研究. 研究代表者: 富岡優子. 2014-2019 年度.

【その他の補助金】

出光文化福祉財団平成 28 年度調査・研究助成, 棟方志功の足跡 海道シリーズの成立と北九州の民藝運動を中心に. 研究代表者: 富岡優子. 2017-2018 年度.

2 1. 博物館刊行物

- (1) 研究報告 A 類 自然史 第 17 号 Special Issue on Coelacanths (2019 年 3 月 31 日発行)
Lionel Cavin, Camila Cupello, Yoshitaka Yabumoto, Léo Fragoso, Uthumporn Deesri, & Paulo M. Brito. Phylogeny and evolutionary history of mawsoniid coelacanths. pp. 3–13. [マウソニア科シーラカンスの系統と進化]
- Yoshitaka Yabumoto, Paulo M. Brito, Masamitsu Iwata and Yoshitaka Abe. A new Triassic coelacanth, *Whiteia uyenoteruyai* (Sarcopterygii, Actinistia) from Madagascar and paleobiogeography of the family Whiteiidae. pp. 15–27. [マダガスカル産三畳紀のシーラカンスの新種 *Whiteia uyenoteruyai*(肉鰭亜綱, シーラカンス下綱) とワイテニア科の古生物地理]
- Camila Cupello*, Gaël Clément, François J. Meunier, Marc Herbin, Yoshitaka Yabumoto and Paulo M. Brito. The long-time adaptation of coelacanths to moderate deep water: reviewing the evidences. pp. 29–35. [シーラカンスの長い時間をかけた深海への適応：証拠のレビュー]
- François J. Meunier, Camila Cupello and Gaël Clément. The skeleton and the mineralized tissues of the living coelacanths. pp. 37–47. [現生シーラカンスの骨格と硬組織]
- Masamitsu Iwata, Yoshitaka Yabumoto, Toshiro Saruwatari, Shinya Yamauchi, Kenichi Fujii, Rintaro Ishii, Toshiaki Mori, Frensy D. Hukom, Dirhamsyah, Teguh Peristiwady, Augy Syahailatua, Kawilarang W. A. Masengi, Ixchel F. Mandagi, Fransisco Pangalila and Yoshitaka Abe. Field surveys on the Indonesian coelacanth, *Latimeria menadoensis* using remotely operated vehicles from 2005 to 2015. pp. 49–55. [2005 年から 2015 年にかけての無人潜水機 (ROV) を使ったインドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の調査]
- Masamitsu Iwata, Yoshitaka Yabumoto, Toshiro Saruwatari, Shinya Yamauchi, Kenichi Fujii, Rintaro Ishii, Toshiaki Mori, Frensy D. Hukom, Dirhamsyah, Teguh Peristiwady, Augy Syahailatua, Kawilarang W. A. Masengi, Ixchel F. Mandagi, Fransisco Pangalila, and Yoshitaka Abe. Observation of the first juvenile Indonesian coelacanth, *Latimeria menadoensis* from Indonesian waters with a comparison to embryos of *Latimeria chalumnae*. pp. 57–65. [インドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* 初の幼魚の観察と *Latimeria chalumnae* の胎仔との比較]
- Toshiro Saruwatari, Masamitsu Iwata, Yoshitaka Yabumoto, Frensy D. Hukom, Teguh Peristiwady and Yoshitaka Abe. A detailed morphological measurement of the seventh specimen of the Indonesian coelacanth, *Latimeria menadoensis*, with a compilation of current morphological data of the species. pp. 67–80. [インドネシアシーラカンス, *Latimeria menadoensis* の 7 個体目となる標本の外部形態の精密計測ならびに本種の既存標本の形態に関する情報の集約]

(2) 研究報告B類 歴史 第16号 (2019年3月31日発行)

【論文】

大橋有佳・富岡優子・志賀智史・木川りか・松井和幸・立野康志郎
「藕糸織仏画の科学調査」 [pp.1-14.]

【資料紹介】

守友 隆「対馬宗家関係資料「風聞帳」の紹介」 [pp.16(63)-78(1).]



年 報

平成 30 年度

令和元年 9 月 20 日 発行

編集・発行 北九州市立自然史・歴史博物館

北九州市八幡東区東田 2-4-1

TEL 093-681-1011

FAX 093-661-7503

<http://www.kmnh.jp>



北九州市立 自然史・歴史博物館

いのちのたび博物館

KITAKYUSHU MUSEUM OF NATURAL HISTORY & HUMAN HISTORY

2019 Kitakyushu Museum of Natural History and Human History, All rights are reserved.